

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録VII)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (7. Ergänzung)
Author	宮澤, 浩一 (Miyazawa, Koichi) 井田, 良 (Ida, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1984
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.57, No.12 (1984. 12) ,p.88 (71)- 158 (1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19841228-0088">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19841228-0088</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資 料

## 西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅶ)

宮 澤 浩 一  
井 田 良

### ま え が き

① 法学研究55巻11号に発表した追録Ⅵ〔これは、宮澤編・西ドイツ刑法学、成文堂、1978年の追録Ⅲである〕に続いて、ここに「追録Ⅶ」を発表する。1983年末までに公刊された著書・編著・論文を整理し、著者ごとに、既発表の部分に補訂する。さらに、既刊の文献で、編者の見落していたものをも、適宜、補完し、一層の正確を期した。今回も、新たに、14名の研究者の略歴と著作を加えることができた。編者らからの照会に対して、快く応じてくれた、多くの人々の協力に、心から感謝している。

② 1983年5月12日から15日にかけて、スイスのベルン大学において開催されたドイツ語圏刑法学会に、編者兩名は出席し、それぞれ手分けして、多数の学者・実務家と会い、情報を蒐集した。編者の一人の宮澤が、初めて、西ドイツの刑法学会(正確には、刑法学会会議という)に出席したのは、1964年のハンブルク大学における会議であった。当時は、法学部のある大学の数は限られており、参加者の数も50人ほどであり、お互いに顔見知りの「同業者組合」の雰囲気であった。数年前から、スイスとオーストリアの研究者をも加えた大所帯となり、また、その間、西ドイツの大学、殊に、法学部の数が倍増したために、会員の数も飛躍的に増えた。殊に、今回の会議は、はじめて、西ドイツ以外の都市で開催され、ベルンとその近郊のアルプスの山々の魅力も人をひきつけたため、200人を越す多数の参加者であった。

しかしながら、われわれは、「西ドイツ刑法学」の御蔭で、大多数の人々とすでに交流があったので、此の会議ではもっぱら旧交を温めるのに時間を費した。参加者名簿によって、新たに、研究者となったことを知りえた若い人々に関しても、すでにその大部分について、われわれの手元には、雑誌論文に至るまで情報の整理ができていたので、その業績を思い出しながら、次々に、コンタクトをとることができた。しかし、それにしても、世代の交代は激しい。

③ 永年にわたって活躍をしていた、クルーク、エーラー、ブラウは、相次いで、第

一線を退き、マイホフナーも、実質的には、学者生活から足を洗っている。追録Ⅵの公刊の後、死去した人のなかで、80歳近い高齢であったギンター・レス（エアランゲン大学員外教授）のほか、1982年に、56歳の若さでガンに倒れたベーター・ノルの死は、惜しんでも余りあるものがある。刑法各則の体系書の第一巻がその絶筆となった。ノルがガンと格闘しているという事実は、三年ほど前に聞いたことがあった。1981年に公刊されたスイス刑法総則第一巻の序文に、「主のみところであれば、わたしは生きながらえもし、あの事この事しよう」（ヤコブの手紙4, 15）の聖句を引き、第二巻刑罰と処分、第三巻個人法益に対する罪、第四巻公共に対する罪の三冊を続刊として予定している旨、明らかにしていた。死を決意した学者の最後を迎えるまでの学問への精進は、まことにすさまじいものであったという（G. Stratenwerth, JZ 1983, S. 118 f.）。それにしても、ドイツ語圏刑法学にとって、その死は、大きな損失である。

④ 世代の交代は、一群の著者の登場によって如実に示される。追録ⅤとⅥにおいて、第二次大戦後に生まれた学者が数名登場したが、今回は6名（P.-A. アルプレヒト, R. ブロイ, J. ボーネルト, K.-L. クンツ, H. オステンドルフ, F. シュトレング）を数える。1966年刑法改正草案対案の起草者の多くは、ここ2～3年で還暦を迎える。今日、若手といわれる人々は、1930年代から40年代生まれへと移っている。これらの若い世代に属する研究者達は、社会科学の方法論を用い、或いは法情報学を応用して、新しい局面に切り込む工夫を加味しながら、21世紀を展望した新しい刑法学を模索しているといつてよいであろう。そして多くの人々が、ヨーロッパやアメリカの学者と共同研究、共同ゼミを行ないつつ、次第に国際舞台での活躍の場を拡げ、ドイツ刑法学に国際性をもたせようとしている。単なる、自閉的な伝統的刑法学のカラを打破しようとするこうした動きは、急である。現代性にあふれたこの状況について、多くの人々は、もっと関心を向けてしかるべきであると思われる。

⑤ 今回も、追録の原稿を整理し終えた段階で、新たに採録しようと考えた16名の人にわれわれの調査データを書き送り、訂正加筆を求めたところ、2名を除き、回答があった。聞くところによると、この人たちは病気または定年間近の高齢者とかで、学会活動は殆んどないに等しいとか。今回の補訂によって、1983年末現在の西ドイツ刑法学の現有勢力のほぼ全容は、一応、把握しえたのではないかと考えている。

ヨーロッパ共同体の政治・経済的な結束については、評価が分れているが、ヨーロッパ理事会の犯罪問題委員会、その他、学問の共同作業の場では、その連帯が次第に強固となっている。殊に、ドイツ研究補助財団（DFG）の援助と豊かな資金の裏づけをえて、西ドイツの学者の研究業績が次第に蓄積され、アメリカとも連携、対抗する状況にある今日、西ドイツの刑法・犯罪学・刑事政策学の成果に対する欧米諸国の専門家たちの関心が集まってきた。そういう状況の下で、本資料は、単に、ドイツ語圏の刑法関係者のみならず、英米、北欧、西欧はもとより、東欧諸国の研究者の間で、利用され、重宝がられているそうである。日本の研究者たちの間でも、いろいろな使われ方がなされている

ようであるが、こうした内外の真面目な学者・実務家のドイツ刑事法研究に際して、幾分なりとも有用な学問情報を提供しているという事実は、こうした迂遠な作業に多くの時間と労力と個人的な財力とを傾注しているわれわれの心の支えとなっている。ゴルトマン・刑法雑誌の編集主任であるパウル・ギュンター・ベッツ司法省刑事局長は、その最近の手紙において、雑誌の編者の立場で言うと、その仕事の遂行を容易になしうる点で、「西ドイツ刑法学」ほど便利な本は他にないと書き添えてくれた。こういう手紙に接するたびに、われわれは、今後、一層の努力と絶えざる精神の集中によって、正確で豊富な学問情報を迅速・適確に提供したいという気持をひきしめるのである。そしてこのことが、われわれ自身の学問にとって、はかり知れない活力とマンネリズムに陥らない刺激とを与えてくれるのである。

追録Ⅶ以降、西ドイツ刑法学の文献整理の仕事に、慶應義塾大学法学部助手の井田良君も参加することとなった。

言うまでもないことであるが、学問情報は個人が独占すべきものではなく、万人に開かれている。ただ、この追録は二年に一度発表の機会をうることになっているので、その間に得た材料については、身近の十数人の人々にしか、素材として提供できないでいる。若し、関心を持たれる方で、何か知りたいことがあれば、私共に遠慮なく問い合わせをなさるよう。また、文献など、コピーを希望される方は、此の資料集に分類したすべては、慶應義塾図書館又は宮澤の個人蔵書のなかにあるから、いつでも提供する用意があるので、連絡なさるよう申しあげておく。情報は、遺漏なく蒐集されねばならないが、しかし、その取捨・選択、利用が適切になされてはじめて、学問として生きる。そのためには、皆で協力し合うことこそ重要なのである。私たちは、内外の同学の士のために、本気で、こうした基礎作業に取り組んでいるものであるから、真面目に対応される方には、私たちの持つすべてを開示することを御約束する。

1984年9月10日

## Vorbemerkungen

In das vorliegende 7. Ergänzungsheft (zugleich die 4. Ergänzung zu „Die deutsche Strafrechtswissenschaft“, hrsgg. v. Koichi Miyazawa, 1978) wurden folgende Damen und Herren neu aufgenommen: Peter-Alex Albrecht (München→Bielefeld), René Bloy (Hamburg→Göttingen), Joachim Bohnert (Freiburg→Konstanz), Edwin Kube (Honorarprofessor Gießen), Karl-Ludwig Kunz (Saarbrücken→Bern), Klaus Marxen (Frankfurt→Bremen), Maria-Katharina Meyer (Hamburg I), Axel Montenbruck (Kiel→FU Berlin), Ulfrid Neumann (München→Frankfurt), Heribert Ostendorf (Kiel→Hamburg II), Peter Rieß (Honorarprofessor Göttingen), Hero Schall (Göttingen→Kiel→Osnabrück), Ellen Schlüchter (Tübingen→Köln), Franz Streng (Heidelberg). Die genannten Kolleginnen und Kollegen

haben uns beim Zustandekommen dieser Ergänzung geholfen. Ihnen allen danken wir bestens.

Die 1982 und 1983 erschienene Literatur wurde berücksichtigt. Daneben sind ältere Titel, die den Verfassern im Laufe der Materialsammlung bekannt wurden, neu aufgenommen worden. (Stand: Ende 1983)

Alle Personen sowie ihre gesamten Schriften sind durchgehend nummeriert. Die Buchstaben a, b usw. verweisen auf neu aufgenommene Personen bzw. nachträglich ergänzte Schriften. Nummern ohne Zusatz beziehen sich auf die entsprechende Stelle in der Bibliographie „Die deutsche Strafrechtswissenschaft“ von Koichi Miyazawa, Tokio, 1978.

Für Hinweise auf Berichtigung bzw. Ergänzung danken wir im voraus.

Tokio, d. 10. September 1984

Koichi Miyazawa                      Makoto Ida

1. アッヘンバッハ (Hans Achenbach)

論文 (Aufsatz)

14. Polizeiliche Inverwahrnahme und strafprozessuales Veräußerungsverbot. NJW 1982, S. 2809 f.

1a. アルプレヒト (Peter-Alex Albrecht)

1946年10月12日に、ハノーバーに生まれた。1977年に、ゲッチンゲン大学で、シュレー・シュプリングホルム教授に提出した論文 Zur sozialen Situation entlassener „Lebenslänglicher“, 1977 により学位を取得し、その後、助手となり、同教授とともにミュンヘンに移って、研究を続けていたが、1982年に、教授資格を取得した。1983年4月、ビーレフェルト大学教授に招聘された。

Geboren am 12. 10. 1946 in Hannover. Promotion bei Schüler-Springorum, Göttingen, 1977. Seit 1978 Assistent in Göttingen, dann in München. Habilitation 1982, SS 1983 Prof. in Bielefeld.

著書・編著 (Bücher)

1. P.-A. Albrecht—Ch. Pfeiffer, Die Kriminalisierung junger Ausländer. Befunde und Reaktionen sozialer Kontrollinstanzen, 1979.
2. P.-A. Albrecht—Siegfried Lamnek, Jugendkriminalität im Zerrbild der Statistik. Eine Analyse von Daten und Entwicklungen, 1979.
3. Perspektiven und Grenzen polizeilicher Kriminalprävention. Die Diversionsmodelle aus den USA in der Sicht deutscher Instanzenvertreter, 1983 (Münchener Habil.).

4. Schüler-Springorum — Albrecht (hrsg.), Jugendstrafe an Vierzehn- und Fünfzehnjährigen, 1983  
論文 (Aufsätze)
1. Die soziale Reintegration „Lebenslänglicher“ im Spannungsverhältnis von Recht und Gnade. MSchrKrim 1973, S. 198 ff.
2. Zur sozialen Situation entlassener „Lebenslänglicher“. MSchrKrim 1977, S. 133 ff.
3. Haftfolgen in der Selbstwahrnehmung entlassener „Lebenslänglicher“. BewHi 1978, S. 128 ff.
4. Aspekte des Maßregelvollzugs im psychiatrischen Krankenhaus. MSchrKrim 1978, S. 104 ff.
5. Albrecht — Pfeiffer — Zapke, Reaktionen sozialer Kontrollinstanzen auf Kriminalität junger Ausländer in der Bundesrepublik. MSchrKrim 1978, S. 268 ff.
6. Albrecht — Pfeiffer, ‚Kulturkonflikt‘ oder soziale Mangelage? — Ansätze zur Erklärung der Kriminalitätsbelastung der ausländischen Wohnbevölkerung in der Bundesrepublik. BewHi 1979, S. 105 ff.
7. Viel Lärm um (fast) nichts! Eine Erwiderung auf Kritik der Studie „Jugendkriminalität im Zerrbild der Statistik“. Krim 1980, S. 116 ff.
8. Albrecht — Franziska Lamott, Wer braucht wen? Sozialtherapie in der Erprobung. MSchrKrim 1980, S. 263 ff.
9. Kriterien zur Sozialprognose nach langer Strafhaft. Psychiatrische Praxis 1981, S. 1 ff.
10. Das Dilemma der Leitprinzipien auf der Tatbestandsseite des Mordparagraphen. JZ 1982, S. 697 ff.
11. Scheinbar freundlichere Mauern — Zur Kritik an der Sozialtherapie im Strafvollzug. Lutherische Monatshefte 1982, S. 121 ff.
12. Der Weg in die Sackgasse? Zur Einschätzung von Prävention-Programmen der amerikanischen Polizei. H. Schüler-Springorum (hrsg.), Mehrfach auffällig, 1982, S. 215 ff.
13. Bedienungswidrig herbeigeführter Geldauswurf bei einem Glücksspielsautomaten — OLG Stuttgart, NJW 1982, 1659. JuS 1983, S. 101 f.
14. Unsicherheitszone des Schuldstrafrechts. — Bewußtseinsstörung und Abartigkeit zwischen normativen Setzungen und empirischer Psychologie — . GA 1983, S. 193 ff.
15. Überzeugungsbildung und Sachverständigenbeweis in der neueren strafrechtlichen Judikatur zur freien Beweiswürdigung (§ 261 StPO). NStZ 1983, S. 486 ff.
16. Zur Legitimationsfunktion von Jugendkriminalstatistiken. Schüler-Springorum (hrsg.), Jugend und Kriminalität, 1983, S. 18 ff.

17. Junge Ausländer vor den Kontrollinstanzen der Bundesrepublik. Schüler-Springorum, op. cit., S. 62 ff.
18. Polizei und Kriminalprävention. Schüler-Springorum, op. cit., S. 111 ff.
19. Albrecht et. al., Jugendstrafvollzug und Kriminalprävention. Schüler-Springorum, op. cit., S. 156 ff.

## 2. アメルンク (Knut Amelung)

### 論文 (Aufsätze)

14. Das Problem der heimlichen Notwehr gegen die erpresserische Androhung kompromittierender Enthüllungen. GA 1982, S. 381 ff.
15. Zur Kritik des kriminalpolitischen Strafrechtssystems von Roxin. JZ 1982, S. 617 ff.
16. Die Zulässigkeit der Einwilligung bei den Amtsdelikten. — Zum Verhältnis von Staatsschutz und Individualschutz im Deutschen Amtsstrafrecht. Festschr. f. Dünnebier, 1982, S. 487 ff.

## 3. アルツト (Gunther Arzt)

### 共著 (Bücher)

9. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. LH 5 : Delikte gegen den Staat, gegen Amtsträger und durch Amtsträger, 1982.
10. Arzt — Weber, Besonderer Teil. LH 2 : Delikte gegen die Person (Randbereich), Schwerpunkt : Gefährdungsdelikte, 1983.
11. Roxin — Arzt — Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht, 1983.

### 論文 (Aufsätze)

31. An Introduction to the 1975 German Criminal Code. The Criminal Justice System of the Federal Republic of Germany, 1981, p. 15 ff.
32. Landfriedensbruch und Demonstrationsfreiheit — insbesondere zur Kriminalisierung des Mitläufers —. JA 1982, S. 269 ff.
33. Strafrecht : Der unter Druck gesetzte Zeuge. JuS 1982, S. 449 ff.
34. Der strafrechtliche Ehrenschatz — Theorie und praktische Bedeutung. JuS 1982, S. 717 ff.
35. Zur Revision des Strafgesetzbuches vom 9. Oktober 1981 im Bereich der Gewaltverbrechen. SchwZStr Bd. 100, 1983, S. 257 ff.
36. Sexualdelikte und Strafrechtsreform. ZBlV 1983, S. 1 ff.
37. Sexualdelikte und Strafrechtsreform : Bemerkungen zur Republik von Martin

Killias und Manfred Rehbinder (ZBIV 119 (1983) 291-307) auf meinen Beitrag in ZBIV 119 (1983) 1-26. ZBIV 1983, S. 514 ff.

38. Der Besondere Teil des materiellen Strafrechts, in: Roxin — Arzt — Tiedemann, op. cit., S. 69 ff.

4. バックェス (Otto Backes)

1983年に、ビーレフェルト大学教授に転じた。

Professor an der Universität Bielefeld, WS 1983.

論文 (Aufsatz)

3. Abschied vom Zeugen vom Hörensagen. Festschr. f. U Klug. Bd. II, 1983, S. 447 ff.

6. バウマン (Jürgen Baumann)

論文 (Aufsätze)

141. Die Reform der Vorschriften über die Öffentlichkeit der Strafverfahren. NJW 1982, S. 1558 ff.
142. Disziplinarmaßnahmen beim Vollzug der Untersuchungshaft. Festschr. f. Dünnebier, 1982, S. 691 ff.
143. Strafrecht und Wirtschaftskriminalität — Eine wegen des E eines WiKG notwendige Erwiderung —. JZ 1983, S. 935 ff.
144. „Lehren aus einer Strafrechtsreform“. Universitas 1983, S. 17 ff.
145. Die Situation des deutschen Strafprozesses. Festschr. f. U Klug. Bd. II, 1983, S. 459 ff.

6a. ベーレント (Hans-Joachim Behrendt)

著書 (Buch)

1. Affekt und Verschulden. Eine Untersuchung zur strafrechtlichen Differenzierung von Struktur und Funktion menschlicher Selbststeuerung, 1983 (Habil. Freiburg)
- 論文 (Aufsatz)
4. Der Tatbegriff im materiellen und formellen Steuerstrafrecht. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 888 ff.

7. ベンマン (Günter Bemann)

論文 (Aufsatz)

16. Zur Fragwürdigkeit der Zwangsernährung von Strafgefangenen. Festschr. f. U Klug. Bd. II, 1983, S. 563 ff.



7b. ヘルツ (Ulrich Berz)

共著 (Buch)

1. Cramer—Berz—Gontard, Straßenverkehrs-Entscheidungen. Sammlung von Urteilen und Beschlüssen, 1983.

論文 (Aufsätze)

25. Übungsklausur StR (Fall aus den Bereichen: Versuch, Eigentumsdelikte, Körperverletzung). Jura 1982, S. 317 ff.
26. Das Hausrecht des Landgerichtspräsidenten — VGH München, BayVBl 1980, 723. JuS 1982, S. 260 ff.
27. Polizeilicher agent provocateur und Tatverfolgung — BGH, NJW 1981, 1626. JuS 1982, S. 416 ff.
28. Möglichkeiten und Grenzen einer Beschleunigung des Strafverfahrens. NJW 1982, S. 729 ff.
29. Gesetz über die internationale Rechtshilfe in Strafsachen. Internationale Wirtschaftsbrieftage 1983, S. 385 ff.

7a. ボイルケ (Werner Beulke)

論文 (Aufsätze)

4. Wer unterrichtet den „Zwangverteidiger“? JR 1982, S. 45 ff.
5. Neugestaltung der Vorschriften über die Öffentlichkeit des Strafverfahrens? JR 1982, S. 309 ff.
6. Strafbarkeit gemäß § 142 StGB nach einverständlichem Verlassen der Unfallstelle und späterem Scheitern der Einigung? — OLG Köln, NJW 1981, 2367. JuS 1982, S. 815 ff.
7. Das Einsichtsrecht des Strafverteidigers in die polizeilichen Spurenakten. Festschr. f. Dünnebier, 1982, S. 285 ff.

8a. ブランケンブルク (Erhard Rudolf Blankenburg)

1980年に、オランダのアムステルダム大学教授となった。

Professor an der Universität Amsterdam, 1980.

論文 (Aufsätze)

- 15a. Recht als gradualisiertes Konzept — Begriffsdimensionen der Diskussion um Verrechtlichung und Entrechtlichung. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie, Bd. 6. Alternative Rechtsformen und Alternativen zum Recht. 1980, S. 83 ff.
- 15b. E. Blankenburg — Klaus Lenk, Organisation und Recht — Einführung in das Thema. Organisation und Recht. Organisatorische Bedingungen des Gesetzesvollzugs.

- Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie. Bd. 7, 1980, S. 7 ff.
17. Schlichtung und Vermittlung — Alternativen zur Ziviljustiz? ZRP 1982, S. 6 ff.
  18. Michael Adams — Erhard Blankenburg, Der Einfluß der Rechtsschutzversicherungen auf den Geschäftsanfall der Gerichte. — Ein Streitgespräch — DRiZ 1983, S. 353 ff.
  19. Das Ideologem einer Gesellschaft ohne Recht. RuP 1983, S. 72 ff.
  20. Evaluation des ersten Jahres Beratungshilfe. ZRP 1983, S. 39 ff.
  21. Weniger Recht durch mehr Gesetz? Eine Rezension des Entwurfs für ein Landesschulgesetz der Kommission Schulrecht des Deutschen Juristentages. Gegentendenzen zur Verrechtlichung. Jb. f. Rechtssoziologie und Rechtstheorie. Bd. 9, 1983, S. 42 ff.

8. ブラウ (Günter Blau)

論文 (Aufsätze)

65. G. Blau — Einhard Franke, Prolegomena zur strafrechtlichen Schuldfähigkeit. Jura 1982, S. 393 ff.
66. Das 5. Colloquium der internationalen Strafrechts- und Strafvollzugsstiftung (15. — 19. 02. 1982 in Syracus, Italien). ZfStrVo 1982, S. 236 ff.
67. Justiz-Kritik. Kritik in Massenmedien. Objektive Kriterien oder subjektive Wertung? 1983, S. 83 ff.

9. ブライ (Hermann Blei)

著書 (Buch)

- 1a. Strafrecht. Allgemeiner Teil. 18. Aufl., 1983.

9a. ブロイ (René Bloy)

1947年4月19日に、ハンブルクで生まれた。1975年、ハンブルク大学においてマイワルト教授の下で学位を取得した (Die dogmatische Bedeutung der Strafausschließungs- und Strafaufhebungsgründe, 1976 として公刊された)。1976年から1983年まで、ゲッティンゲン大学でマイワルト教授の助手を務め、1983年、同教授の下で教授資格を得た。その後、ゲッティンゲン大学で私講師の地位にある。

Geboren am 19. April 1947 in Hamburg. Jura-Studium in Hamburg und Freiburg. Promotion bei Maiwald, Hamburg 1975. 1976-1983 wissenschaftlicher Assistent bei Maiwald in Göttingen. Habilitation 1983 bei Maiwald. Seitdem Privatdozent in Göttingen.

論文 (Aufsätze)

1. Finaler und sozialer Handlungsbegriff. ZStrW Bd. 90, 1978, S. 609 ff.
2. Zur Systematik der Einstellungsgründe im Strafverfahren. GA 1980, S. 161 ff.
3. Grundprobleme des Verhältnisses zwischen Staatsanwaltschaft und rechtsprechender Gewalt. JuS 1981, S. 427 ff.

10. ボッケルマン (Paul Bockelmann)

論文 (Aufsatz)

84. Darf der Arzt seinem Patienten bestimmte Geschäfte zum Bezug der verordneten Hilfsmittel empfehlen? NJW 1982, S. 2111 f.

11. ベーム (Alexander Böhm)

共編 (Buch)

4. H.-D. Schwind — A. Böhm (hrsg.). Strafvollzugsgesetz (StVollzG). Gesetz über den Vollzug der Freiheitsstrafe und der freiheitsentziehenden Maßregeln der Besserung und Sicherung vom 16. März 1976 (BGBl. I, 1976, 581). Großkommentar, 1983. 論文 (Aufsätze)
36. Jugendgericht. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. 14, 1981, S. 484 ff.
37. Jugendstrafvollzug. Schneider, op. cit., S. 505 ff.
38. Aus der neueren Rechtsprechung zum Jugendstrafrecht. NStZ 1982, S. 413 ff.
39. Zur Reform der Untersuchungshaft an jungen Gefangenen. Festschr. f. Dünnebier. 1982, S. 677 ff.
40. Aus der neueren Rechtsprechung zum Jugendstrafrecht. NStZ 1983, S. 448 ff.

11a. ボーネルト (Joachim Bohnert)

1946年7月22日に、フライブルクで生まれた。1973年、フライブルク大学において、ホラーバッフ (Alexander Hollerbach) 教授の下で学位を得た (Über die Rechtslehre Georg Friedrich Puchtas (1798-1846), 1975)。1975年から1982年まで、ホラーバッフ教授の助手であった。1981年に、フライブルク大学において、ルドルフ・シュミット教授の指導の下で教授資格を取得した。論文は、Beschränkungen der strafprozessualen Revision durch Zwischenverfahren, 1983 であった。1982年に、コンスタンツ大学教授に就任した。

Geboren am 22. 7. 1946 in Freiburg i. Br. 1965-1970 Studium der Jura und Philosophie an den Univ. Freiburg, Bonn und Heidelberg. Promotion bei Hollerbach, Freiburg. 1973. 1973-1975 Referendar, 1977-1981 Assistent am Seminar für Rechtsphilosophie

sophie und Kirchenrecht an der Univ. Freiburg. Habil. bei Rudolf Schmitt, Freiburg, 1981. Professor in Konstanz, 1982.

著書 (Bücher)

1. Vierzehn Briefe Puchtas an Savigny. Nachrichten der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, I. Philologisch-historische Klasse, Jg. 1979 Nr. 2.
2. Paul Johann Anselm Feuerbach und der Bestimmtheitsgrundsatz im Strafrecht, 1982.

論文 (Aufsätze)

1. Books and articles on natural law, jurisprudence, and related areas published in Germany, Switzerland, Austria, France and Italy, 1974. The American Journal of Jurisprudence. vol. 20, 1975, p. 170 ff.; 1975, vol. 21, 1976, p. 200 ff.; 1977, vol. 23, 1978, p. 261 ff.; 1978, vol. 24, 1979, p. 232 ff.
2. Strafrechtlicher Übungsfall: Der entwendete Säugling. JuS 1977, S. 746 ff.
3. Das Tatbestandsmerkmal "List" im Strafgesetzbuch. GA 1978, S. 535 ff.
4. Zum Problem des Anhörungsrechts Dritter im Strafverfahren. JZ 1978, S. 710 ff.
5. Kirche, Staat und die Unmöglichkeit eines besonderen Kirchenrechts bei Richard Rothe. Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Kanonistische Abteilung 96, 1979, S. 217 ff.
6. Beiträge zu einer Biographie Georg Friedrich Puchtas. Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung 96, 1979, S. 229 ff.
7. Die Reichweite der staatsanwaltschaftlichen Einstellung im Jugendstrafrecht. NJW 1980, S. 1927 ff.
8. Hegels Darstellung der bürgerlichen Gesellschaft im Naturrechtsaufsatz von 1802. Zeitschrift für philosophische Forschung 1981, S. 531 ff.
9. Die Einstellungsbeschlüsse nach § 206a, 206b StPO. GA 1982, S. 166 ff.
10. Fahrlässigkeitsvorwurf und Sondernorm. JR 1982, S. 6 ff.
11. Gibt es eine Drittbeziehung bei der strafrechtlichen Nötigung? JR 1982, S. 397 ff.
12. Die Auslegung des Wegnahmebegriffs bei der Pfandkehr (§ 289 StGB) — BayObLG, NJW 1981, 1745. JuS 1982, S. 256 ff.
13. Ordnungsvorschriften im Strafverfahren. NStZ 1982, S. 5 ff.
14. Das Bestimmtheitserfordernis im Fahrlässigkeitstatbestand. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 68 ff.
15. Die Willensbarriere als Tatbestandsmerkmal des Hausfriedensbruchs. GA 1983, S. 1 ff.
16. Strafrecht : Eine politische Flugzeugentführung. JuS 1983, S. 942 ff.
17. Strafe und Erziehung im Jugendstrafrecht. JZ 1983, S. 517 ff.

18. Die Behandlung des Verzichts im Strafprozeß. NStZ 1983, S. 344 ff.

13a. ボトゥケ (Wilfried Reinhold Bottke)

1983年冬学期に、マンハイム大学教授に就任した。

Professor an der Universität Mannheim, WS 1983.

著書 (Bücher)

2. Suizid und Strafrecht, 1982.

3. Strafprozeßordnung. Kommentierte Gesetze, 1982.

論文 (Aufsätze)

18. Das Recht auf Suizid und Suizidverhütung. GA 1982, S. 346 ff.

19. Politik und Strafrecht am Beispiel des Umweltschutzes. Univ. 1982, S. 727 ff.

20. Die Beurteilung von Suizid, Suizidversuch und Suizidbeteiligung durch die strafrechtliche Rechtsprechung. Christian Reimer (hrsg.), Suizid. Ergebnisse und Therapie, 1982, S. 85 ff.

21. Probleme der Suizidbeteiligung. GA 1983, S. 22 ff.

22. Rechtsprobleme der Verwertung von Daten eines freiwillig eingebauten Fahrt- oder Kurzwegschreibers de lege lata und de lege ferenda. JR 1983, S. 309 ff.

14. ブラウネク (Anne-Eva Brauneck)

論文 (Aufsatz)

16. Das Unbewußte und die Affekte. Psyche, 1981, S. 1034 ff.

15. ブルンス (Hans-Jürgen Bruns)

著書 (Buch)

5. Neue Wege zur Lösung des strafprozessualen »V-Mann-Problems«. Durch »schriftliche Befragung« des Zeugen nach § 251 II StPO? 1982.

論文 (Aufsätze)

62. Grundprobleme der strafrechtlichen Organ- und Vertreterhaftung (§ 14 StGB, § 9 OWiG). GA 1982, S. 1 ff.

63. Zur Antinomie der Strafzwecke im Jugendstrafrecht — Neuorientierung der Rechtsprechung? Strafverteidiger 1982, S. 592 ff.

64. Grundprobleme des Strafzumessungsrechts. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 111 ff.

65. „Widerspruchsvolles“ Verhalten des Staates als neuartiges Strafverfolgungsverbot und Verfahrenshindernis, insbesondere beim tatprovokierenden Einsatz polizeilicher Lockspitzel. NStZ 1983, S. 49 ff.

66. Können ordnungswidrige Preisabsprachen bei öffentlichen Ausschreibungen nach

- geltendem Recht auch als Betrug mit Kriminalstrafe geahndet werden? NSTZ 1983, S. 385 ff.
67. Präjudizierende Randbemerkungen zum »Vorlage«-Beschuß des BGH 2 StR 792/82 vom 4. 5. 1983. Strafverteidiger 1983, S. 382 ff.
- 15a. ブルックハルト (Björn Burckhardt)  
論文 (Aufsätze)
9. Zur Abgrenzung von Versuch und Wahndelikt im Steuerstrafrecht. Zugleich Anmerkung zum Urteil des KG v. 9. 9. 1981, wistra 1982, 196. wistra 1982, S. 178 ff.
10. Zur Möglichkeit einer utilitarischen Rechtfertigung des Schuldprinzips. Baumgartner — Eser (hrsg.), Schuld und Verantwortung, 1983, S. 51 ff.
17. カリース (Ralf-Peter Calliess)  
共著 (Buch)
- 3b. Calliess — Müller-Dietz, Strafvollzugsgesetz. 3. Aufl., 1983.  
論文 (Aufsatz)
17. Sozialarbeit im Strafvollzug. Einige Thesen als Diskussionsgrundlage. Grundrechte und soziale Wirklichkeit, 1982, S. 205 ff.
20. クラーマー (Peter Cramer)  
編著 (Bücher)
- 10a. Schönke — Schröder, Strafgesetzbuch. 21. Aufl., 1982.
11. Cramer — Berz — Gontard, Straßenverkehrs-Entscheidungen. Sammlung von Urteilen und Beschlüssen, 1983.
22. デンカー (Friedrich Dencker)  
論文 (Aufsätze)
9. Besprechung von Aufsätzen und Anmerkungen zum Straf- und Strafprozeßrecht. NSTZ 1982, S. 152 ff., 1983, 398 ff.
10. Zur Zulässigkeit staatlich gesteuerter Deliktsbeteiligung. Festschr. f. Dünneber, 1982, S. 447 ff.
24. エーベルト (Udo Ebert)  
論文 (Aufsatz)
10. Verbrechensbekämpfung durch Opferbestrafung? JZ 1983, S. 633 ff.

25. アイゼンベルヒ (Ulrich Eisenberg)  
著書 (Bücher)
4. Jugendgerichtsgesetz mit Erläuterungen, 1982.  
論文 (Aufsätze)
14. Übungsklausur : Strafrecht. Die gefälschten Dollar-Noten. Jura 1983, S. 267 ff.
15. Einführung in Grundprobleme des Jugendstrafrechts — dargestellt an Hand von zwei Originalfällen. JuS 1983, S. 570 ff.
16. Strafen und Massregeln. Sieverts — Schneider (hrsg.), Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Lief. 1, 1983, S. 15 ff.
26. エンゲル (Siegfried W. Engel)  
論文 (Aufsatz)
34. Binnengesicht. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Lefferenz, 1983, S. 671 ff.
28. エンギッシュ (Karl Engisch)  
著書 (Buch)
- 10a. Einführung in das juristische Denken. 8. Aufl., 1983.  
論文 (Aufsatz)
88. Formale Logik, Begriff und Konstruktion in ihrer Bedeutung und Tragweite für die Rechtswissenschaft. Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 33 ff.
29. エーザー (Albin Eser)  
著書・共著 (Bücher)
- 10a. Schönke — Schröder, StGB. 21. Aufl., 1982
- 12a. Strafrecht IV. Vermögensdelikte. 4. Aufl., 1983.
13. Einführung in das Strafprozeßrecht, 1983.
14. Baumgartner — Eser, Schuld und Verantwortung. Philosophische und juristische Beiträge zur Zurechenbarkeit menschlichen Handelns, 1983.  
論文 (Aufsätze)
39. Strafrechtliche Entwicklung im Ausland. JZ 1983, S. 673.
40. Die Tötungsdelikte in der Rechtsprechung seit BGH-GSt 1/81 bis Ende Juni 1983. NStZ 1983, S. 433 ff., 1984, S. 49 ff.
41. Strafrechtliche Probleme der Euthanasie und Sterbehilfe. Sterbehilfe und Patienten-Testament, 1983, S. 74 ff.

32. フェーツァー (Gerhard Fezer)  
論文 (Aufsatz)
8. Rechtsschutz gegen erledigte strafprozessuale Zwangsmaßnahmen. — Dargestellt an den Beispielen der Beschlagnahme und Durchsuchung —. Jura 1982, S. 18 ff., 126 ff.
33. フィードラー (Herbert Fiedler)  
論文 (Aufsatz)
15. Die Rechtsfindung aus dem Gesetz im Lichte der neueren Logik und Methodenlehre. Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 55 ff.
34. フィンケ (Martin Fincke)  
論文 (Aufsätze)
22. Die Aufenthaltsregeln für Ausländer in der UdSSR. ROW 1983, S. 200 ff.
23. Zum Begriff des Beschuldigten und den Verdachtsgraden. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 918 ff.
35. フリッシュ (Wolfgang Frisch)  
著書 (Bücher)
1. Prognoseentscheidungen im Strafrecht. Zur normativen Relevanz empirischen Wissens und zur Entscheidung bei Nichtwissen, 1983.
2. Vorsatz und Risiko. Grundfragen des tatbestandsmäßigen Verhaltens und des Vorsatzes. Zugleich ein Beitrag zur Behandlung außertatbestandlicher Möglichkeitsvorstellungen, 1983.  
論文 (Aufsätze)
9. Das Marburger Programm und die Maßregeln der Besserung und Sicherung. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 565 ff.
10. Zum tatbestandsmäßigen Verhalten der Strafvereitelung — OLG Stuttgart, NJW 1981, 1569. JuS 1983, S. 915 ff.
11. Tatbestandsprobleme der Strafvollstreckungsvereitelung. NJW 1983, S. 2471 ff.
36. ガラス (Wilhelm Gallas)  
祝賀文 (Glückwünsche)  
Manfred Maiwald, Wilhelm Gallas 80 Jahre. JZ 1983, S. 562 f.  
H.-H. Jescheck, Wilhelm Gallas zum 80. Geburtstag. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 281 ff.



37. ゲールズ (Friedrich Geerds)

著書 (Buch)

10. Sachbeschädigungen. Formen und Ursachen der Gewalt gegen Sachen aus der Sicht von Kriminologie und Kriminalistik, 1983.

論文 (Aufsätze)

63. Gewaltkriminalität. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. 14, 1981, S. 329 ff.
64. Vernehmungstechnik. Schneider, op. cit., S. 747 ff.
65. Psychologie des Strafverfahrens. Schneider, op. cit., S. 763 ff.
66. Festnahme und Untersuchungshaft bei Antrags- und Privatklagedelikten. GA 1982, S. 237 ff.
67. Über das Erschleichen von Informationen für publizistische Zwecke. JR 1982, S. 183 ff.
68. Durchsuchungen von Personen, Räumen und Sachen — Strafprozessuale Probleme und kriminalistische Erkenntnisse. Festschr. f. Dünnebieber, 1982, S. 171 ff.
69. Entwicklungsstand und Tendenzen der wissenschaftlichen Kriminalistik in der Bundesrepublik Deutschland. Wissenschaftliche Kriminalistik. Bd. 1, 1983, S. 37 ff.

38. ガイレン (Gerd Geilen)

著書 (Buch)

3. Studium und Examen. 2. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

34. Probleme des § 323c StGB. Jura 1983, S. 78 ff., 138 ff.
35. Methodische Hinweise zur Bearbeitung von Strafrechtsfällen. Studium und Examen, op. cit.

38a. ガイスラー (Werner Geisler)

論文 (Aufsatz)

5. W. Aufsattler — M. Oswald — W. Geisler — U. Großhoff, Eine Analyse richterlicher Entscheidungen über die Strafrestaussatzung nach § 57 I StGB. MSchrKrim 1982, S. 305 ff.

39. ゲッペルト (Klaus Geppert)

著書 (Buch)

3. Die ärztliche Schweigepflicht im Strafvollzug, 1983.

論文 (Aufsätze)

16. Das Legalitätsprinzip. Jura 1982, S. 139 ff.
17. Die gegenwärtige gesetzliche Regelung der Zwangsernährung von Gefangenen (§ 101 StVollzG). Jura 1982, S. 177 ff.
18. Grundzüge der Konkurrenzlehre (§§ 52 bis 55 StGB). Jura 1982, S. 358 ff., 418 ff.
19. Zur Bindungs- und Sperrwirkung nach § 153a StPO — insbesondere, wenn die Geldbuße mit Hilfe Dritter erfüllt wird. Festschr. z. 25jährigen Bestehen des Bundes gegen Alkohol im Strassenverkehr, 1982, S. 29 ff.
20. Repetitorium: Straftaten gegen die Ehre (§§ 185 ff. StGB). Jura 1983, S. 530 ff., 568 ff.
21. Examensklausur Strafrecht. Jura 1983, S. 660 ff.

40. ギーリング (Heinz Giehring)

論文 (Aufsatz)

8. Politische Meinungsäußerung und die Tatmodalitäten des Werbens und der Unterstützung in den §§ 129, 129a StGB. Strafverteidiger 1983, S. 296 ff.

41. ゲッピンガー (Hans Göppinger)

著書 (Buch)

8. Der Täter in seinen sozialen Bezügen. Ergebnisse aus der Tübinger Jungtäter-Vergleichsuntersuchung, 1983.

論文 (Aufsatz)

40. Kriminologische Aspekte zur sogenannten verminderten Schuldfähigkeit (§ 20, 21 StGB). Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. Heinz Leferenz, 1983, S. 397 ff.

42. ゲッセル (Karl Heinz Gössel)

著書 (Buch)

- 1a. Maurach — Gössel, Strafrecht. Mit Anleitungen zur Fallbehandlung und zur Subsumtion für Studenten und Referendare. 4. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

26. Über die Folgen der Aufhebung von Berufungsurteilen in der Revisionsinstanz. Zugleich eine Besprechung des Urteils des OLG Stuttgart vom 27. 11. 1981 — 1 Ss 706/81. JR 1982, S. 270 ff.
27. Über die revisionsrichterliche Nachprüfbarkeit von Beschlüssen, mit denen die Öffentlichkeit gemäß §§ 172, 173 GVG im Strafverfahren ausgeschlossen wird. NSStZ 1982, S. 141 ff.

28. Die Stellung des Verteidigers im rechtsstaatlichen Strafverfahren. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 5 ff.
29. Die Nachprüfung von Tatsachenfeststellungen in der Revisionsinstanz in Strafsachen. Tatsachenfeststellung in der Revisionsinstanz, 1982, S. 117 ff.
30. Das Problem der Strafverteidigung durch den Beschuldigten selbst oder durch einen Rechtsanwalt. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum XI. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Caracas 1982, 1982, S. 127 ff.
31. Überlegungen zur Bedeutung des Legalitätsprinzips im rechtsstaatlichen Strafverfahren. Festschr. f. Dünnebie, 1982, S. 121 ff.
32. Über die Zulässigkeit der Wiederaufnahme gegen teilrechtskräftige Urteile. NSTZ 1983, S. 391 ff.

43. グレーピング (Gerhardt Grebing)

追悼文 (Nekrolog)

H.-H. Jescheck, Gerhardt Grebing †. JZ 1982, S. 614 f.

論文 (Aufsätze)

27. Übungsklausur Strafrecht. Rechtsschutz gegen (erledigte) Anordnungen von Durchsuchung und Beschlagnahme. Jura 1982, S. 214 ff.
28. Strafrecht und unlauterer Wettbewerb — zur Reform des § 4 UWG. wistra 1982, S. 83 ff.
29. Abschaffung oder Reform der Privatklage? GA 1984, S. 1 ff. (Antrittsvorlesung vom 17. 12. 1981).

45. グリューンワルト (Gerald Grünwald)

論文 (Aufsätze)

30. Der Beitrag der Rechtsvergleichung zum Allgemeinen Teil des deutschen Strafgesetzbuches. H.-H. Jescheck (Hrsg.), Strafrechtsreform in der Bundesrepublik Deutschland und in Italien, 1981, S. 125 ff.
31. Der Niedergang des Prinzips der unmittelbaren Zeugenvernehmung. Festschr. f. Dünnebie, 1982, S. 347 ff.
32. Die Verfahrensrolle des Mitverschuldigten. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 493 ff.

46. グシュウィント (Martin Gschwind)

共著 (Buch)

21. M. Gschwind — F. Petersohn — E. Rautenberg, Die Beurteilung psychiatrischer

Gutachten im Strafprozeß, 1982.

46a. ギュンター (Hans-Ludwig Günther)

論文 (Aufsatz)

7. Lebenslang für „heimtückischen Mord“? NJW 1982, S. 353 ff.

47. ハフケ (Bernhard Haffke)

論文 (Aufsatz)

19. „Besondere Schwere der Schuld“ und „Verteidigung der Rechtsordnung“ in den Gesetzentwürfen zur Aussetzung des Strafrestes bei lebenslanger Freiheitsstrafe. Antrieb und Hemmung bei Tötungsdelikten. 1982, S. 19 ff.

48. ハフト (Fritjof Haft)

著書 (Bücher)

4. Strafrecht. Fallrepetitorium zum Allgemeinen und Besonderen Teil, 1982.

5. Einführung in das juristische Lernen, 1983.

論文 (Aufsatz)

23. Die Unterlassungsdelikte — ein Lernprogramm. JA 1982, S. 473 ff.

50. ハナク (Ernst-Walter Hanack)

論文 (Aufsatz)

50. Die Verteidigung vor dem Revisionsgericht. Festschr. f. Dünnebie, 1982, S. 301 ff.

52. ハッセマー (Winfried Hassemer)

共著 (Buch)

10. Hassemer — Lüderssen — Naucke, Fortschritte im Strafrecht durch die Sozialwissenschaften? 1983.

論文 (Aufsätze)

32. Religionsdelikte in der säkularisierten Rechtsordnung. Christentum, Säkularisation und modernes Recht, 1981, S. 1309 ff.

33. Resozialisierung und Rechtsstaat. KrimJ 1982, S. 161 ff.

34. Die Funktionstüchtigkeit der Strafrechtspflege — ein neuer Rechtsbegriff? Strafverteidiger 1982, S. 275 ff.

35. Informelle Programme im Strafprozeß. Zu Strategien der Strafverteidigung. Strafverteidiger 1982, S. 377 ff.

36. Über nicht-juristische Normen im Recht. ZVglRWiss 81, 1982, S. 84 ff.
37. Über die Berücksichtigung von Folgen bei der Auslegung der Strafgesetze. Europäisches Rechtsdenken in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. H. Coing, 1982, S. 493 ff.
38. Verhandlungsunfähigkeit des Verurteilten im Wiederaufnahmeverfahren. NJW 1983, S. 2353 ff.
39. Alternativen zum Schuldprinzip? Baumgartner — Eser (Hrsg.), Schuld und Verantwortung, 1983, S. 89 ff.
40. Rücksichten auf das Verbrechensopfer. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 217 ff.
41. Strafziele im sozialwissenschaftlich orientierten Strafrecht. Hassemer — Lüderssen — Naucke, op. cit., S. 39 ff.

53. ハイニッツ (Ernst Heinitz)

祝賀文 (Glückwünsche)

Lüttger, Laudatio zum 80. Geburtstag von Ernst Heinitz. JR 1982, S. 190 ff.

Oehler, Ernst Heinitz zum 80. Geburtstag. JZ 1982, S. 33.

53. ハイニッツ (Wolfgang Heinz)

論文 (Aufsätze)

17. Bewährungshilfe im sozialen Rechtsstaat. BewHi 1982, S. 154 ff.
18. Strafrechtsreform und Sanktionsentwicklung — Auswirkungen der sanktionsrechtlichen Regelungen des 1. und 2. StrRG 1969 sowie des EGStGB 1974 auf die Sanktionspraxis. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 632 ff.
19. République Fédérale d'Allemagne. Rapport national. RIDP vol. 54, 1983, p. 629 ff.
20. Wirtschaftskriminologische Forschungen in der Bundesrepublik Deutschland. wistra 1983, S. 128 ff.
21. W. Heinz — G. Spieß, Alternativen zu formellen Reaktionen im deutschen Jugendstrafrecht. Ein Forschungsvorhaben zu §§ 45, 47 JGG und erste Ergebnisse. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätentstehung u. Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/2, 1983, S. 896 ff.

58. ヘレン (Rüdiger Herren)

著書 (Buch)

6. Denktraining in Kriminalistik und Kriminologie. Fallanalysen, 1982.

59. ヘルマン (Joachim Herrmann)  
論文 (Aufsätze)
25. Die Unabhängigkeit des Richters? DRiZ 1982, S. 286 ff.
26. The Independence of the Judge in the Federal Republic of Germany. Contemporary Problems in Criminal Justice. Essays in Honour of Professor Shigemitsu Dando, 1983, p. 61 ff.
60. ヘルツベルヒ (Rolf Dietrich Herzberg)  
論文 (Aufsätze)
20. Examensklausur StR. Abgrenzung Erpressung/Betrug, Anstiftungsversuch zu § 211 StGB, Strafvereitelung. Jura 1983, S. 367 ff.
21. Der agent provocateur und die „besonderen persönlichen Merkmale“ (§ 28 StGB). JuS 1983, S. 737 ff.
- 60a. ヒレンカンブ (Thomas Hillenkamp)  
著書 (Buch)
- 1a. 24 Probleme aus dem Strafrecht. Allg. Teil. 4. Aufl., 1981.
63. ヒルシュ (Hans Joachim Hirsch)  
論文 (Aufsätze)
16. Schlußbemerkungen aus deutscher Sicht. Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform in der BRD und in Italien, 1981, S. 153 ff.
17. Zur Reform der Reform des Widerstandsparagraphen (§ 113 StGB). Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 235 ff.
65. ホルン (Eckhard Horn)  
著書 (Buch)
5. Systematischer Leitsatzkommentar zum Sanktionenrecht, 1983.  
論文 (Aufsätze)
25. Die Drohung mit einem erlaubten Übel : Nötigung? NSTZ 1983, S. 497 ff.
26. Umweltschutz-Strafrecht : eine After-Disziplin? Umwelt- und Planungsrecht, 1983, S. 362 ff.
27. Strafbarkeit der Zwangssterilisation. ZRP 1983, S. 265 f.
66. ルシュカ (Joachim Hruschka)  
著書 (Buch)

2. Strafrecht nach logisch-analytischer Methode. Systematisch entwickelte Fälle mit Lösungen zum Allgemeinen Teil, 1983.

論文 (Aufsätze)

28. Die Herbeiführung eines Erfolges durch einen von zwei Akten bei eindeutigen und bei mehrdeutigen Tatsachenfeststellungen. JuS 1982, S. 317 ff.  
29. Alternativfeststellung zwischen Anstiftung und sog. psychischer Beihilfe. JR 1983, S. 177 ff.  
30. Pflichtenkollisionen und Pflichtenkonkurrenzen. Festschr. f. K. Larenz zum 80. Geburtstag, 1983, S. 257 ff.

67. ヒューナーフェルト (Peter Hünerfeld)

論文 (Aufsätze)

4. Beteiligung mehrerer an einem Verbrechen. Einheitstäterschaft oder Differenzierung unterschiedlicher Formen der Beteiligung? Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform in der BRD und in Italien, 1981, S. 115 ff.  
5. Neues Strafrecht in Portugal. JZ 1983, S. 673 ff.

69. イエーガー (Herbert Jäger)

論文 (Aufsätze)

22. Entwicklungen zu abweichender Konformität und kriegsähnlichem Handeln — Rückblick auf ein Teilprojekt der Terrorismusforschung. KrimJ 1983, S. 131 ff.  
23. Strafgesetzgebung als Prozeß. Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 83 ff.

70. ヤコブス (Günter Jakobs)

著書 (Buch)

2. Strafrecht. Allgemeiner Teil. Die Grundlagen und die Zurechnungslehre, 1983.

論文 (Aufsätze)

12. Zum Verhältnis von psychischem Faktum und Norm bei der Schuld. Sozialtherapie. KrimGegFr. 15, 1982, S. 127 ff.  
13. Die juristische Perspektive zum Aussagewert der Handlungsanalyse einer Tat. Joachim Gerchow (hrsg.), Zur Handlungsanalyse einer Tat, 1983, S. 21 ff.

71. イエシェック (Hans-Heinrich Jescheck)

編著・共編 (Bücher)

20. Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform in der Bundesrepublik Deutschland und in Italien, 1981.

21. Jescheck — Kaiser (hrsg.), Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1982.  
論文 (Aufsätze)
124. Methoden der Vorbereitung und Durchführung der deutschen Strafrechtsreform. Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform usw., op. cit., 1981, S. 11 ff.
125. Gerhardt Grebing †. JZ 1982, S. 614 f.
126. Die Entwicklung der Strafrechtspolitik in der Bundesrepublik Deutschland seit der Mitte der fünfziger Jahre. Strafrechtlicher Teil. Jescheck — Kaiser, Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium usw., op. cit., 1982, S. 11 ff.
127. Grenzen der Rechtsgewährung in der Strafrechtspflege in rechtsvergleichender Sicht. DRiZ 1983, S. 383 ff. (auch in: öRiZ 1983, S. 202 ff.)
128. A la mémoire de Gerhardt Grebing. RIDP vol. 54, 1983, p. 13 ff.
129. Wilhelm Gallas zum 80. Geburtstag. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 281 ff.
130. Alternativen zur Freiheitsstrafe. Contemporary Problems in Criminal Justice. Essays in Honour of Professor Shigemitsu Dando, 1983, p. 83 ff.
131. Die Freiheitsstrafe bei Franz v. Liszt im Lichte der modernen Kriminalpolitik. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 257 ff.
72. ユング (Heike Jung)  
共著・共編 (Bücher)
7. Jung — Müller-Dietz, Anleitung zur Bearbeitung von Strafrechtsfällen, 1983.
8. Jung — Müller-Dietz (hrsg.), Reform der Untersuchungshaft — Vorschläge und Materialien —, 1983.
9. Jung — Müller-Dietz (hrsg.), § 218 StGB. Dimensionen einer Reform, 1983.  
論文 (Aufsätze)
42. H. Jung — K.-L. Heinz, Das Absehen von Strafe nach § 174 IV StGB. NStZ 1982, S. 409 ff.
43. H. Jung — Hans-Jürgen Schroth, Das Strafrecht als Gegenstand der Rechtsangleichung in Europa. GA 1983, S. 241 ff.
44. Le rôle du ministère public en procedure pénale allemande. RSCDPC 1983, p. 223 ff.
45. Zur Strafbarkeit des Inzests. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Lefferenz, 1983, S. 311 ff.
46. Der strafrechtliche Schutz des Arztgeheimnisses im deutschen und französischen Recht. Rechtsvergleichung, Europarecht u. Staatenintegration. Gedächtnisschr. f. Leontin Constantinesco, 1983, S. 355 ff.



47. Das Institut der Untersuchungshaft im rechtsvergleichenden Überblick. Jung — Müller-Dietz, Reform der Untersuchungshaft, 1983, S. 79 ff.
48. § 218 : Fragen der Bewährung einer Strafrechtsreform. Jung — Müller-Dietz, § 218 StGB, op. cit., 1983, S. 133 ff.

73. カイザー (Günther Kaiser)

著書・共著 (Bücher)

- 6a. Kaiser — Schöch — Kerner, Strafvollzug. Ein Lehrbuch. 3. Aufl., 1982.
- 12a. Jugendkriminalität. Rechtsbrüche, Rechtsbrecher und Opfersituationen im Jugendalter. 3. Aufl., 1982.
- 13a. Kaiser — Schöch, Kriminologie — Jugendstrafrecht — Strafvollzug. 2. Aufl., 1982.
14. Jescheck — Kaiser (hrsg.), Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1982.
15. Strafvollzug im europäischen Vergleich, 1983.

論文 (Aufsätze)

- 80a. Differenzierte Behandlungsmethoden im Vollzug. Gibt es ein Recht auf Strafe? Zum neueren Streit um Begründung und Ausgestaltung der Strafe, 1980, S. 79 ff.
89. Qualifizierung der Schuld im Verkehrsrecht. Beiträge zur gerichtlichen Medizin, 1981, S. 247 ff.
90. Begriff und Aufgabe der Kriminologie. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts, Bd. 14, 1981, S. 47 ff.
91. Entkriminalisierende Möglichkeiten des jugendstrafrechtlichen Sanktionenrechts und ihre Ausschöpfung in der Praxis. NStZ 1982, S. 102 ff.
92. Kaiser — Dünkel — Ortman, Die sozialtherapeutische Anstalt — das Ende einer Reform? ZRP 1982, S. 198 ff.
93. Die Entwicklung der Strafrechtspolitik in der Bundesrepublik Deutschland seit der Mitte der fünfziger Jahre. Kriminologischer Teil. Jescheck — Kaiser, Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium usw., op. cit., 1982, S. 31 ff.
94. Der gegenwärtige Stand und die Möglichkeiten zur Fortentwicklung des Jugendstrafrechts. RJBW, 1983, S. 346 ff.
95. „Biokriminologie“, „Staatskriminologie“ und die Grenzen kriminologischer Forschungsfreiheit. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Lefrenz, 1983, S. 47 ff.
96. Kriminalisierung und Entkriminalisierung in Strafrecht und Kriminalpolitik. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 579 ff.
97. Federal Republic of Germany. Elmer H. Johnson (ed.), International Handbook

- of Contemporary Developments in Criminology. Europe, Africa, the Middle East and Asia, 1983, p. 257 ff.
98. Verkehrsdelinquenz. W. Seits (hrsg.), Kriminal- und Rechts-Psychologie, 1983, S. 216 ff.

74. アルミン・カウフマン (Armin Kaufmann)

著書 (Buch)

1. Strafrechtsdogmatik zwischen Sein und Wert. Gesammelte Aufsätze und Vorträge, 1982.  
論文 (Aufsatz)
16. Rechtspflichtbegründung und Tatbestandseinschränkung. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 277 ff.

75. アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)

著書 (Bücher)

- 7a. Schuld und Strafe. Studien zur Strafrechtsdogmatik. 2. Aufl., 1983.
20. Die Parallelwertung in der Laiensphäre. Ein sprachphilosophischer Beitrag zur allgemeinen Verbrechenslehre, 1982.
21. Strafrecht zwischen Gestern und Morgen. Ausgewählte Aufsätze und Vorträge, 1983.  
論文 (Aufsätze)
70. Zur ethischen und strafrechtlichen Beurteilung der sogenannten Früheuthanasie. JZ 1982, S. 481 ff.
71. Beziehungen zwischen Recht und Novellistik. NJW 1982, S. 606 ff.
72. Gedanken zu einer ontologischen Grundlegung der juristischen Hermeneutik. Europäisches Rechtsdenken in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. H. Coing, 1982, S. 537 ff.
73. Euthanasie — Selbsttötung — Tötung auf Verlangen. Contemporary Problems in Criminal Justice. Essays in Honour of Professor Shigemitsu Dando, 1983, p. 97 ff. (auch in MedR 1983, S. 121 ff.)
74. Rechtsphilosophie und Nationalsozialismus. Politik und Kultur. 10. Jg., 1983, S. 13 ff.
75. Rechtsphilosophie und Nationalsozialismus. Recht, Rechtsphilosophie und Nationalsozialismus. ARSP Beiheft 18, 1983, S. 1 ff.
76. Gedanken zu einer ontologischen Grundlegung der juristischen Hermeneutik. Das Naturrechtsdenken heute und morgen. Gedächtnisschr. f. René Marcic, 1983, S.

597 ff.

77. Paul Johann Anselm von Feuerbach: „Die hohe Würde des Richteramts“. Festschr. f. K. Larenz zum 80. Geburtstag, 1983, S. 319 ff.
78. Die Idee der Toleranz aus rechtsphilosophischer Sicht. Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 97 ff.

78. ケルナー (Hans-Jürgen Kerner)

共著・編著 (Bücher)

- 2a. Kaiser — Schöch — Kerner, Strafvollzug. Ein Lehrbuch. 3. Aufl., 1982.
3. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. 3 Bände, 1983.
4. Diversion statt Strafe? Probleme und Gefahren einer neuen Strategien strafrechtlicher Sozialkontrolle, 1983.  
論文 (Aufsätze)
22. Kriminalstatistiken. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. 14, 1981, S. 262 ff.
23. Kriminalitätsverlauf und -struktur in der Bundesrepublik Deutschland. Schneider (hrsg.), op. cit., S. 274 ff.
24. Differenzierung und Klassifizierung im Strafvollzug. Differenzierung und Klassifizierung im Strafvollzug aus heutiger Sicht. 1982, S. 6 ff.
25. Möglichkeiten der Öffnung der Verfahren (straf)rechtlicher Sozialkontrolle für präventive Maßnahmen. H. Kury (hrsg.), Prävention abweichenden Verhaltens — Maßnahmen der Vorbeugung und Nachbetreuung, 1982, S. 789 ff.
26. Vorbemerkungen (Bundestagung Bewährungshilfe 1982). BewHi 1983, S. 1 ff.
27. Jochen Abr. Frowein — Hans-Jürgen Kerner — Peter Ulmer, Baden-Württembergischer Reformentwurf über die Ausbildung und Prüfung der Juristen — ein Schritt zurück. JZ 1983, S. 792 ff.
28. Einleitung. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen usw., op. cit., Bd. 6/1, 1983, S. 29 ff.
29. H.-J. Kerner — Helmut Janssen, Rückfall nach Jugendstrafvollzug — Betrachtungen unter dem Gesichtspunkt von Lebenslauf und krimineller Karriere. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferez, 1983, S. 211 ff.
30. Statt Strafe: Diversion? Zur Einführung in die Thematik. H.-J. Kerner (hrsg.), Diversion statt Strafe?, op. cit., 1983, S. 1 ff.

80. キーナッペル (Diethelm Kienapfel)

著書 (Buch)

3a. Fälle und Lösungen zum Strafrecht, 4. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

37. Der Begriff der öffentlichen Urkunde im Strafrecht. JB1 1982, S. 505 ff.

38. Zur Abgrenzung von Urkundenfälschung und Urkundenunterdrückung. Jura 1983, S. 185 ff.

39. Einheitstäterschaft im Ordnungswidrigkeitenrecht. NJW 1983, S. 2226 ff.

40. Blattschuß. Kienapfel (hrsg.), Fälle und Lösungen, op. cit., 1983, S. 104 ff.

81. クラインクネヒト (Theodor Kleinknecht)

共著 (Buch)

2a. Kleinknecht — Karlheinz Meyer, Strafprozeßordnung. Mit GVG und Nebengesetzen. 36. Aufl., 1983.

82. クルーク (Ulrich Klug)

祝賀文 (Glückwunsch)

Spendel, Jurist und Logik — Ulrich Klug zum 70. Geburtstag. JZ 1983, S. 865 f.

Festschrift für Ulrich Klug zum 70. Geburtstag. Bd. I: Rechtsphilosophie und Rechtstheorie, Bd. II: Strafrecht Prozeßrecht Kriminologie Strafvollzugsrecht, 1983.

Verzeichnis der Veröffentlichungen von Ulrich Klug, S. 625 ff.

著書 (Bücher)

9. Skeptische Rechtsphilosophie und humanes Strafrecht. Bd. 1: Rechts- und staatsphilosophische Analysen und Positionen., Bd. 2: Materielle und formelle Strafrechtsprobleme, 1981.

82a. ケーラー (Michael Köhler)

1983年に、ハンブルク大学教授となった。

Professor an der Universität Hamburg I, SS 1983.

著書 (Bücher)

3. Die bewußte Fahrlässigkeit. Eine strafrechtlich-rechtsphilosophische Untersuchung, 1982.

4. Über den Zusammenhang von Strafrechtsbegründung und Strafzumessung: erörtert am Beispiel der Generalprävention, 1983.

論文 (Aufsatz)

5. Nötigung als Freiheitsdelikt. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr.

f. H. Leferenz, 1983, S. 511 ff.

83. コールマン (Günter Kohlmann)

編者 (Buch)

5. Strafverfolgung und Strafverteidigung im Steuerstrafrecht. Grundlagen des Steuerstrafrechts heute, 1983.

論文 (Aufsätze)

18. Steuerstrafrecht in der Bewährung. wistra 1982, S. 2 ff.  
19. G. Kohlmann — U. Braun, Investitionszulage 1982 — wiederum kriminogen? wistra 1982, S. 61 ff.  
20. Steuerverwaltungsvorschriften und Steuerstrafrecht. Grenzen der Rechtsfortbildung durch Rechtsprechung und Verwaltungsvorschriften im Steuerrecht, 1982, S. 301 ff.  
21. Kohlmann — Günther Felix, Berufsverbände und Parteienfinanzierung — weitere steuerrechtliche Überlegungen zur sog. Parteispendenaffäre. Der Betrieb, 1983, S. 2328 ff.  
22. Parteienfinanzierung „unter den Augen“ der Behörden. wistra 1983, S. 207 ff.  
23. Der Straftatbestand der Steuerhinterziehung — Anspruch und Wirklichkeit. G. Kohlmann (hrsg.), Strafverfolgung und Strafverteidigung usw., 1983, S. 5 ff.  
24. Aussetzung des Steuerstrafverfahrens gemäß § 396 AO und prozessuale Fürsorgepflicht. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 507 ff.

84a. クラツチュ (Dietrich Kratzsch)

論文 (Aufsätze)

10. Für oder wider die „Rechtsfolgenlösung“ des Großen Senats für Strafsachen. Zur Auslegung des § 211 StGB. JA 1982, S. 401 ff.  
11. Die Bemühungen um Präzisierung der Ansatzformel (§ 22 StGB) — ein absolut untauglicher Versuch? JA 1983, S. 420 ff., 578 ff.  
12. Die Schwierigkeiten im Umgang mit der Selbstanzeige. G. Kohlmann (hrsg.), Strafverfolgung und Strafverfahren im Steuerstrafrecht, 1983, S. 283 ff.

85. クラウゼ (Friedrich Wilhelm Krause)

論文 (Aufsatz)

23. Dreierlei Beweis im Strafverfahren. Jura 1982, S. 225 ff.

86. クラウス (Detlev Krauß)

論文 (Aufsätze)

15. Subjekt im Strafverfahren? Das Tatopfer als Subjekt, 1981, S. 44 ff.  
 16. Das Unrechtsbewußtsein. Studie an zwei Gerichtsurteilen. Unrechtsbewußtsein. Aus der Sicht des Täters. Aus der Sicht des Richters, 1982, S. 30 ff.

87. クレブス (Albert Krebs)

論文 (Aufsätze)

102. Von der Tugend „Vertrauen“ als Triebkraft in der Sozialarbeit — Erfahrungen aus einem sechzigjährigen Berufsleben —. ZStrVo 1982, S. 348 ff.  
 103. Der Anstaltsbeirat (§§ 162-165 StVollzG) — Eine sozialgeschichtliche Studie über das Mitwirken gesellschaftlicher Kräfte bei dem staatlichen Vollzug der Freiheitsstrafe. Festschr. f. H. Dünnebieer, 1982, S. 707 ff.

88. クロイツァー (Arthur Kreuzer)

論文 (Aufsätze)

50. Drogenabhängigkeit in kriminologischer Sicht. BewHi 1982, S. 232 ff.  
 51. Definitionsprozesse bei Tötungsdelikten. Wie Polizei und Justiz das strafrechtliche Entscheidungsprogramm zur Tötungskriminalität handhaben. Krim 1982, S. 428 ff., 491 ff.  
 52. Zur forensischen Begutachtung „gefährlicher“ Drogen. NJW 1982, S. 1310 ff.  
 53. Heranwachsendenrecht, kurze Freiheitsstrafen und Beschlußverwerfungspraxis — Strafrechtlich-kriminologische Kritik an Strafzumessungspraktiken anhand der Verurteilung eines Haschischgebrauchers —. Strafverteidiger 1982, S. 438 ff.  
 54. Kriminelle Karrieren der Süchtigen. Kriminologische Probleme des Alkohols- und Drogenmißbrauchs, 1982, S. 43 ff.  
 55. A. Kreuzer — Ch. Gebhardt — M. Maassen, Opfer innerhalb krimineller Subkulturen — unter besonderer Berücksichtigung der Drogensubkulturen. Schneider (hrsg.), Das Verbrechenopfer in der Strafrechtspflege, 1982, S. 264 ff.  
 56. Kinderdelinquenz und Jugendkriminalität. ZSchr. f. Pädagogik, 29. Jg., 1983, S. 49 ff.  
 57. Strafvollzug in Brasilien — Ein pönologischer Vergleich. Festschr. f. Erwin Stein, 1983, S. 145 ff.  
 58. Gießener Beiträge zur Dunkelfeldforschung und empirischen Strafverfahrenswissenschaft. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen usw., Bd. 6/1, 1983, S. 235 ff.

89. クライ (Volker Krey)

著書 (Buch)

3. Keine Strafe ohne Gesetz. Einführung in die Dogmengeschichte des Satzes „nullum crimen, nulla poena sine lege“, 1983.

論文 (Aufsatz)

13. Grundzüge des Strafverfahrensrechts. Einführung. JA 1983, S. 233 ff., 359 ff., 506 ff., 638 ff.

90. クリュンベルマン (Justus Krümpelmann)

論文 (Aufsatz)

15. Dogmatische und empirische Probleme des sozialen Schuldbegriffs. GA 1983, S. 337 ff.

90b. クーベ (Edwin Kube)

1938年4月11日、ウィーヒシュタットルに生まれた。1957年から1961年まで、ハイデルベルヒとマインツで法律学を学んだ。1963年に学位を取得した(テーマは、Die Geschichte des Beweisverfahrens und der Kriminalistik in Deutschland)。1975年から1981年まで、連邦刑務局の犯罪捜査学研究所において、犯罪捜査学・犯罪学研究課の課長を勤めた。1982年以来、同犯罪捜査学研究所の部長の地位にある。1983年にギーゼン大学の名誉教授となった。

Geboren am 11. 4. 1938. 1957–1961 Jurastudium in Heidelberg und Mainz. 1963 Promotion „Die Geschichte des Beweisverfahrens und der Kriminalistik in Deutschland.“ 1975–1981 Leitender Regierungsdirektor im Bundeskriminalamt als Leiter der Kriminalistisch-kriminologischen Forschungsgruppe des Kriminalistischen Institutes. Seit 1982 Leiter des Kriminalistischen Institutes des Bundeskriminalamtes. Seit 1983 Honorarprofessor der Universität Gießen.

著書・共著・編著 (Bücher)

1. Beweisverfahren und Kriminalistik in Deutschland, 1963.
2. Den Bürger überzeugen. Stil, Strategie und Taktik der Verwaltung, 1973.
3. Planung der Verbrechensbekämpfung (Mitherausgeber/Mitautor), 1980.
4. Polizeibeamte als Zeugen und Sachverständige (Mitautor), 2. Aufl., 1980.
5. Städtebau, Wohnhausarchitektur und Kriminalität, 1982.
6. Wissenschaftliche Kriminalistik — Grundlagen und Perspektiven — (Mitherausgeber/Mitautor), Bd. 1, 1983, Bd. 2, 1984.
7. Vandalismus — Erkenntnisstand und Bekämpfungsansätze (Mitautor), 2. Aufl., 1983.
8. Vandalism in Urban Milieux, Council of Europe, 1984.

9. Prävention von Wirtschaftskriminalität — Möglichkeiten und Grenzen, 1984.

論文 (Aufsätze)

1. Aktuelle Organisations- und Führungsprobleme in der öffentlichen Verwaltung. Die Verwaltungspraxis 1973, S. 129 ff.
2. Führungsmodelle, moderne Führungsgrundsätze und Managementtechniken in der Verwaltungspraxis. Deutsches Verwaltungsblatt 1973, S. 869 ff.
3. Management durch Zielsetzung — ein empfehlenswertes Managementkonzept für die Polizei? Die Polizei 1974, S. 238 ff.
4. Der Konflikt als Führungsproblem. Kriminalistik 1974, S. 245 ff., S. 296 ff.
5. Information und Kommunikation als Führungsmittel. Polizei-Führungsakademie, Ausbildung und Einsatz der Bereitschaftspolizei, 1974, S. 137 ff.
6. Welche präventiven Auswirkungen hat eine durch vermehrte Streifenfötigkeit erhöhte Polizeipräsenz? Kriminalistik 1975, S. 481 ff.
7. (Mitautor) Kriminalistisch-kriminologische Forschung des Kriminalistischen Instituts des Bundeskriminalamtes. Archiv für Kriminologie 1975 (Bd. 156), S. 65 ff. (auch veröffentlicht in: Belügyi Szemle 23/1977, S. 39 ff.)
8. Einführung in das Seminarthema, Polizei-Führungsakademie, Rechtsposition und kommunikative Situation polizeilicher Zeugen und Sachverständiger in Strafprozessen, 1975, S. 5 ff.
9. (Mitautor) Planungs- und Entscheidungstechniken für die polizeiliche Aufgabenerfüllung. Die Polizei 1975, S. 401 ff.
10. Kommunikationsprobleme zwischen Polizei und Gericht. JZ 1976, S. 17 ff.
11. Public Expectations and Police Role Concepts: Federal Republic of Germany, The Police Chief 5/1976, S. 52 ff.
12. Zielorientierte Planung, Führung und Erfolgsbewertung bei der polizeilichen Verbrechensbekämpfung. Kriminalistik 1976, S. 262 ff.
13. Prevention du crime et recherche scientifique dans le cadre de la police, Revue Internationale de Police Criminelle 1976, S. 222 ff.
14. Was geschieht auf dem Gebiet der Kriminalitätsprognose? Kriminalistik 1976, S. 350 ff.
15. Polizeiliche Prävention und Forschung. Bundeskriminalamt, Polizei und Prävention, 1976, S. 113 ff.
16. Research in the Fields of Criminalistics and Criminology Carried out by the Federal Bureau of Criminal Police in the Federal Republic of Germany. The Police Chief 11/1976, S. 63 ff.
17. Effizientes Verhalten bei Problemlösungsbesprechungen. Die Polizei 1977, S. 37 ff.



18. Einführung in die Thematik. Bundeskriminalamt, Straftatenklassifizierung und -gewichtung. Internationales Symposium im Bundeskriminalamt, 1977, S. 16 ff.
19. Einleitung in: Banscheraus, Polizeiliche Vernehmung: Formen, Verhalten, Protokollierung. BKA-Forschungsreihe, Wiesbaden 1977, S. 13 ff.
20. (Mitautor) Aktuelle Probleme der Kriminalstatistik und Kriminalitätsmessung bei der polizeilichen Aufgabenerfüllung. Archiv für Kriminologie, Bd. 159, 1977, S. 151 ff.
21. Polizeiliche Kriminalstatistik als Planungsinstrument. Neugestaltung der Polizeilichen Kriminalstatistik auf der Basis der Straftaten/Straftäterdaten, 1977, S. 101 ff. (=PFA-Schriftenreihe 1978, S. 89 ff.).
22. Kommunikative Strategien beim Gespräch mit dem Bürger. Verwaltungsrundschau 1977, S. 361 ff.
23. Polizei vor Gericht. Polizei und Justiz, 1977, S. 115 ff.
24. Effektive Kommunikation zwischen Vorgesetztem und Mitarbeiter in der Polizei. Die neue Polizei 1977, S. 68 ff.
25. (Mitautor) Police Research in the Federal Republic of Germany. Police Studies 3/1978, S. 11 ff.
26. (Mitautor) Polizeiliche Vernehmung: Formen, Verhalten und Protokollierung. Kriminalistik 1978, S. 97 ff.
27. (Mitautor) Protokollierungsmängel bei polizeilichen Vernehmungen. Deutsche Polizei 5/1978, S. 24 ff.
28. (Mitautor) Polizeiliche Planungsbereiche bei der Verbrechensbekämpfung. Kriminalistik 1978, S. 68 ff.
29. Kriminalistisch-kriminologische Forschung in der Bundesrepublik und den USA. Kriminalistik 1978, S. 439 ff.
30. Städtebau, Architektur und Kriminalität. Deutsche Polizei 10/1978, S. 17 ff.
31. (Mitautor) Städtebau, Wohnumwelt und Kriminalität. Der Städtetag 1978, S. 719 ff.
32. Polizeibedienstete als Zeugen und Sachverständige vor Gericht. DRiZ 1979, S. 38 ff.
33. Ziele des Symposiums. Städtebau und Kriminalität, Internationales Symposium, 1979, S. 5 ff.
34. Protokollierungsprobleme bei Vernehmungen durch Polizeibeamte. Archiv für Kriminologie Bd. 163, 1979, S. 175 ff.
35. Kriminalistisch-kriminologische Forschung im BKA. Kriminalpolizei aktuell, 1979, S. 40 ff.
36. Verbrechenopfer und Täter. Kriminalistik 1980, S. 152 ff.

37. Kriminalistisch-kriminologische Forschung des BKA. Kriminalistik 1980, S. 471 ff.
38. (Mitautor) Städtebau und Prävention. Schwind/Berckhauer/Steinhilper, Präventive Kriminalpolitik, 1980, S. 443 ff.
39. Kriminalität und Städtebau. Wohnen in gesunder Umwelt, Heft 35, 1980, S. 403 ff.
40. Ausblick. Wohnhausarchitektur und Kriminalität, 1980, S. 225 ff.
41. Der Einfluß der Polizeipraxis auf die Kriminalpolitik. Die Polizei 1981, S. 72 ff. (auch in: Bundeskriminalamt, Polizei und Kriminalpolitik, 1981)
42. Urban Planning, Architecture and Crime Prevention. Police Studies, 1/1981, S. 9 ff.
43. Kriminalistisch-kriminologische Forschung und Polizeipraxis, in: Schriftenreihe aus der Deutschen Kriminologischen Gesellschaft Bd. 75, 1981, S. 13 ff.
44. Prävention — Bestandsaufnahme und Entwicklungstendenzen. Die Polizei 1982, S. 82 ff. (auch in: Bundeskriminalamt, Bestandsaufnahme und Perspektiven der Verbrechensbekämpfung, 1982)
45. Narcotics and Crime Prevention: Police Practice and Research. Police Studies 1/1982, S. 14 ff.
46. Kriminalitätsabwehrende Wohnhausarchitektur und Sicherheitstechnik. Deutsche Polizei 11/1982, S. 17 ff.
47. Rechtsgrundlagen polizeilicher Datenverarbeitung. Polizeiliche Datenverarbeitung, 1983, S. 99 ff.
48. Untersuchungen über Möglichkeiten und Grenzen der Vorhersage von Entwicklungen der allgemeinen Kriminalität. Schriftenreihe der Polizei-Führungsakademie 2/1983, 116 ff.
49. Polizeibeamte als Zeugen vor Gericht. Deutsche Polizei 11/1983, S. 24 ff., 12/1983, S. 18 ff.
50. (Mitautor) Wirtschaftskriminalität. Eine zusammenfassende Betrachtung der Ergebnisse der BKA-Arbeitstagung 1983. Kriminalistik 1983, S. 600 ff.

90a. キュール (Kristian Kühl)

1983年冬学期に、ギーゼン大学教授となった。

Professor in Gießen, WS 1983.

著書 (Buch)

1. Unschuldsvermutung, Freispruch und Einstellung, 1983.  
論文 (Aufsatz)
12. Zwei Aufgaben für ein modernes Naturrecht. Das Naturrechtsdenken heute und morgen. Gedächtnisschr. f. René Marcic, 1983, S. 817 ff.

91. キューネ (Hans Heiner Kühne)

著書 (Buch)

6a. Strafprozeßlehre. 2. Aufl., 1982.

論文 (Aufsatz)

31. Therapieforchung: Die Not bei der Überprüfung drogentherapeutischer Effizienz und ihrer institutionellen Rahmenbedingungen. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferez, 1983, S. 181 ff.

91a. クーネルト (Karl Heinz Kunert)

論文 (Aufsatz)

11. Zur Rückwirkung des milderen Steuerstrafgesetzes. Neue Zschr. f. Steuerrecht, 1982, S. 276 ff.

91-1. クンツ (Karl-Ludwig Kunz)

1947年9月16日に、ザールブリュッケンに生まれた。法学と哲学を学んだ後、助手となり、1976年に検察官、1977年に刑事裁判官となったが、その間、1976年に学位を取得した (Die analytische Rechtstheorie: Eine „Rechts“theorie ohne Recht? — Systematische Darstellung und Kritik. 1977)。1983年に、教授資格を取得したが、その論文は、Das strafrechtliche Begattellprinzip. Eine strafrechtsdogmatische und kriminalpolitische Untersuchung. Saarbrücker Habil., 1984である。ベルン大学とビーレフェルト大学から招聘をうけている。

Geboren am 16. 9. 1947 in Saarbrücken. Nach Jura- und Philosophiestudium 1971-1976 wissenschaftlicher Assistent an der Univ. des Saarlandes, 1976 Staatsanwalt, seit 1977 Strafrichter. Promotion 1976, Habilitation 1983 in Saarbrücken. Rufe nach Bern und Bielefeld im SS 1984.

著書 (Buch)

1. Die Einstellung wegen Geringfügigkeit durch die Staatsanwaltschaft (§§ 153 Abs. 1, 153a Abs. 1 StPO). Eine empirische Untersuchung in kriminalpolitischer Absicht, 1980.

論文 (Aufsätze)

1. Rechtstheorie — regionale allgemeine Wissenschaftstheorie oder Erkenntnistheorie des Rechts? Arthur Kaufmann (hrsg.), Rechtstheorie, 1971, S. 19 ff.
2. Der "labeling approach". Ein Paradigmawechsel in der modernen Kriminalsoziologie. ARSP Bd. 61, 1975, S. 413 ff.
3. Kunz — Müller — Spiegelberg, Forschungsprobleme in der Kriminologie. Bericht über das 11. Kolloquium der süddeutschen kriminologischen Institute vom 6.-8. 6.

- 1975 in Freiburg. ZRP 1975, S. 245 f.
4. Strafrecht: Die prestigefördernde Computer-Manipulation. JuS 1977, S. 604 ff.
  5. Das Absehen von der Strafverfolgung bei Bagatelldelinquenz. Empirische Untersuchung der Entscheidungspraxis zu §§ 153, 153a der Strafprozeßordnung. KrimJ 1979, S. 35 ff.
  6. Die „wertneutrale“ analytische Betrachtung des Rechts: eine Aufwertung von Herrschaft zu Recht? ARSP 1982, S. 101 ff.
  7. Jung — Kunz, Das Absehen von Strafe nach § 174 Abs. 4 StGB. NSTZ 1982, S. 409 ff.
  8. Die strafrechtliche Problematik der freiwilligen Sterilisation. JZ 1982, S. 788 ff.
  9. Strafausschluß oder -milderung bei Tatveranlassung durch falsche Rechtsauskunft? GA 1983, S. 457 ff.
  10. Die Verbrechensfurcht als Gegenstand der Kriminologie und als Faktor der Kriminalpolitik. MSchrKrim 1983, S. 162 ff.
  11. Die organisierte Nothilfe. Möglichkeiten und Grenzen der Inanspruchnahme von Notrechten durch gewerbliche Sicherheitsunternehmen und „Bürgerwehren“. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 973 ff.

92. キューパー (Wilfried Küper)

著書 (Buch)

3. Der „verschuldete“ rechtfertigende Notstand. Zugleich ein Beitrag zur „*actio illicita in causa*“, 1983.  
論文 (Aufsätze)
38. Das Wesentliche am wesentlich überwiegenden Interesse. Zur Interpretation der Interessenabwägungsformel der § 34 StGB. GA 1983, S. 289 ff.
39. Examensklausur StR (Der Banküberfall). Jura 1983, S. 206 ff.
40. Der entschuldigende Notstand — ein Rechtfertigungsgrund? JZ 1983, S. 88 ff.
41. Der Versuchsbeginn bei mittelbarer Täterschaft. JZ 1983, S. 361 ff.
42. Aspekte der „*actio libera in causa*“ — Ein Dialog. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 573 ff.

93. キュルツィンガー (Josef Kürzinger)

著書 (Buch)

1. Kriminologie. Eine Einführung in die Lehre vom Verbrechen, 1982.

94. ラックナー (Karl Lackner)

著書 (Buch)

6a. Strafgesetzbuch mit Erläuterungen. 15. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

43. Eduard Dreher zum 75. Geburtstag. JR 1982, S. 196.

44. Karl Lackner — Christian Imo, Zum Vermögensschaden bei betrügerischen Manipulationen mit Wareterminoperationen. MDR 1983, S. 969 ff.

45. Festschrift für Hanns Dünnebieber zum 75. Geburtstag. NSTZ 1983, S. 254 f.

46. Zur rechtlichen Behandlung der Mehrfachtäter bei Aussetzung des Restes einer lebenslangen Freiheitsstrafe. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 609 ff.

95. ランベ (Ernst-Joachim Lampe)

論文 (Aufsatz)

29. „Juristische“ Logik, „logische“ Jurisprudenz? Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 113 ff.

97. ランゲ (Richard Lange)

論文 (Aufsätze)

118. Probleme des Betäubungsmittelrechts. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 606 ff.

119. Kriminologische Krisenherde. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 25 ff.

98. ランガー (Winrich Langer)

論文 (Aufsatz)

3. Gesetzlichkeitsprinzip und Strafmilderungsgründe. Festschr. f. Dünnebieber, 1982, S. 421 ff.

99. レフェレンツ (Heinz Leferenz)

Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschrift für Heinz Leferenz zum 70. Geburtstag, 1983.

Hans Udo Störzer, Bibliographie Heinz Leferenz, S. 675-698.

論文 (Aufsatz)

43. Probleme des Sachverständigenbeweises. Jescheck — Kaiser (hrsg.), Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht u. Kriminologie, 1982, S. 173 ff.

101. レンクナー (Theodor Lenckner)  
共著 (Buch)  
1a. Schönke — Schröder, StGB. 21. Aufl., 1982.  
論文 (Aufsätze)
31. Begünstigung, Strafvereitelung und Verteidigungsverbot nach § 60 Nr. 2 StPO.  
Zugleich Besprechung von BGH, Urt. v. 18. 3. 1982 - 4 StR 565/81, NStZ 1982,  
430 - . NStZ 1982, S. 401 ff.
31. Der Strafprozeß im Dienst der (Re-)Sozialisierung. JuS 1983, S. 340 ff.
32. Th. Lenckner — Heribert Schumann — Wolfgang Winkelbauer, Grund und Gren-  
zen der strafrechtlichen Selbstanzeige im Steuerrecht und das Wiederaufleben der  
Berichtigungsmöglichkeit im Fall der Außenprüfung. wistra 1983, S. 123 ff., 172 ff.
102. レス (Günter Less)  
1982年7月12日に、ロールで、77歳で死去した。  
Verstorben am 12. Juli 1982 in Lohr a. Main.
103. ロース (Fritz Loos)  
論文 (Aufsätze)
7. Max Webers Wissenschaftslehre und die Rechtswissenschaft. JuS 1982, S. 87 ff.
8. Fritz Loos — Dirk Schwerdtfeger, Grenzen der Strafbarkeit wegen „Unerlaubten  
Entfernens vom Unfallort“ nach geltendem Recht. DAR 1983, S. 209 ff.
104. リューダーセン (Klaus Lüderssen)  
共著 (Bücher)
13. Becker-Toussaint — de Boor — Goldschmidt — Lüderssen — Muck, Aspekte der  
psychoanalytischen Begutachtung im Strafverfahren, 1981.
14. Hassemer — Lüderssen — Naucke, Fortschritte im Strafrecht durch die Sozialwis-  
senschaften ? 1983.  
論文 (Aufsätze)
23. Vergeltung und Sühne vor dem Forum der christlichen Ethik — kein Platz mehr  
für absolute Strafzwecke ? Christentum, Säkularisation und modernes Recht, 1981,  
S. 1261 ff.
24. Das alltägliche Antlitz des Verrats — Zugleich eine Besprechung von Peter  
Noll: Landesverräter. Siebzehn Lebensläufe und Todesurteile —. JZ 1982, S. 102 ff.
25. Wie abhängig ist der Strafverteidiger von seinem Auftraggeber ? Wie unabhängig  
soll er und kann er sein ? Gustav-Radbruch-Forum, 1982, S. 36 ff. (auch in: Fest-

schr. f. Dünnebie, 1982, S. 263 ff.).

26. Juristische Topik und konsensorientierte Rechtsgeltung. Europäisches Rechtsdenken in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. H. Coing, 1982, S. 549 ff.
27. Bürgerfreiheit und Vernunft im strafenden Staat. Betrachtungen zur 150. Wiederkehr des Todesjahres von Paul Johann Anselm Feuerbach (14. 11. 1775-29. 5. 1833). JuS 1983, S. 910 ff.
28. Wolfgang Preiser zum 80. Geburtstag. JZ 1983, S. 219.
29. Ermittlungsnotstand. Merkur 1983, S. 719 ff.
30. Peter Noll †. NJW 1983, S. 1038.
31. Die Parteispendenproblematik im Steuerrecht und Steuerstrafrecht — Vorsatz und Irrtum. wistra 1983, S. 223 ff.
32. Rollenkonflikte im Verfahren: Zeuge oder Beschuldigter. wistra 1983, S. 231 ff.
33. Zur „Unerreichbarkeit“ des V-Mannes. Festschr. f. U. Klug. Bd. II. 1983, S. 527 ff.
34. Der Freiheitsbegriff der Psychoanalyse und seine Folgen für das moderne Strafrecht. Hassemer — Lüderssen — Naucke, Fortschritte im Strafrecht usw., 1983, S. 67 ff.

105. リュットガー (Hans Lüttger)

論文 (Aufsätze)

25. Laudation zum 80. Geburtstag von Ernst Heinitz. JR 1982, S. 190 ff.
26. Geburtsbeginn und pränatale Einwirkung mit postnatalen Folgen. NStZ 1983, S. 481 ff.

106. マイホーファー (Werner Maihofer)

1981年に、フローレンスにあるヨーロッパ大学学長に就任した。

Präsident des Instituto Universitario Europeo, Firenze, 1981.

共著 (Buch)

10. Benda — Maihofer — Vogel — Hesse, Handbuch des Verfassungsrechts der Bundesrepublik Deutschland. Bd. 1, 1983.

論文 (Aufsatz)

50. Europäisches Rechtsdenken heute. Europäisches Rechtsdenken in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. H. Coing, 1982, S. 579 ff.

108. マイワルト (Manfred Maiwald)

論文 (Aufsätze)

19. Zur deutschen Gesetzesregelung über den Irrtum. Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform in der BRD und in Italien, 1981, S. 105 ff.
20. Die Verteidigung der Rechtsordnung — Analyse eines Begriffs. GA 1983, S. 49 ff.
21. Wilhelm Gallas 80 Jahre. JZ 1983, S. 562 f.

110a. マルクセン (Klaus Marxen)

1945年1月15日に、ホルシュタインのマルネに生まれた。1965年から70年まで、キール大学において、法学・哲学・歴史を学び、主として、ナウケ教授の指導を受け、同教授とともにフランクフルト大学に転じた。1974年に、学位を取得している（後出）。1982年まで助手を務め、1982年に、ナウケ教授に提出した論文（Straftatsystem und Strafprozess, 1984）により、教授資格を取得した。1983年に、ブレーメン大学教授に就任した。

Geboren am 15. 1. 1945 in Marne/Holstein. 1965—1970 Studium in Kiel (Rechtswissenschaft, Philosophie, Geschichte). Promotion bei Naucke, Frankfurt, 1974. Seit 1976 Assistent in Frankfurt, Habilitation bei Naucke, 1982. 1982—1983 Lehrstuhlvertretung in Hannover, 1983 Prof. Bremen.

著書 (Bücher)

1. Der Kampf gegen das liberale Strafrecht. Eine Studie zum Antiliberalismus in der Strafrechtswissenschaft der 20er und 30er Jahre, 1975.
2. Die „sozialethischen“ Grenzen der Notwehr, 1979.

論文 (Aufsätze)

1. Tonaufnahmen während der Hauptverhandlung für Zwecke der Verteidigung. NJW 1977, S. 2188 ff.
2. Medienfreiheit und Unschuldsvermutung. GA 1980, S. 365 ff.
3. Die Grenzen der Notwehr bei Auseinandersetzungen in der Ehe (BGH NJW 1969, S. 809 und BGH NJW 1975, S. 62). Vom Nutzen und Nachteil der Sozialwissenschaften für das Strafrecht. Bd. 1, 1980, S. 63 ff.
4. Die rechtsphilosophische Begründung der Straftatslehre im Nationalsozialismus. Zur Frage der Kontinuität strafrechtswissenschaftlichen Denkens. Recht, Rechtsphilosophie und Nationalsozialismus, 1983, S. 55 ff.

113. メルゲン (Armand Mergen)

論文 (Aufsätze)

48. La criminologie (Leçon d'adieu). Krim Bull 1982, p. 3 ff.
49. Die Kriminalistik im Wissenschaftssystem der Kriminologie. Wissenschaftliche Kriminalistik. Bd. 1, 1983, S. 19 ff.



113a. モイラー (Dieter Meurer)

著書 (Buch)

6. Einführung in die Kriminalwissenschaften, 1982.

論文 (Aufsätze)

10. Meurer — Alfred Bergmann, Tatbestandsalternativen beim Glückspiel — BayObLG, NJW 1979, 2258. JuS 1983, S. 668 ff.

11. Ausgewählte Forschungsprojekte der kriminologischen Abteilung der Philipps-Universität Marburg/Lahn. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/1, 1983, S. 263 ff.

114. ニルゲン・マイヤー (Jürgen Meyer)

論文 (Aufsätze)

17. Verbotsirrtum im Ordnungswidrigkeitenrecht — OLG Düsseldorf, NSTz 1981, 444. JuS 1983, S. 513 ff.

18. Zur prozeßrechtlichen Problematik des V-Mannes. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 834 ff.

114a. マリア・カタリナ・マイヤー (Maria-Katharina Meyer)

1941年5月23日に、ベルリンで生まれた。ミュンヘン、ハンブルク、テュービンゲン、ゲッティンゲンで法律学を学び、1970年に学位を取得した (Die Strafwürdigkeit der Anstiftung dem Grade nach (beschränkt auf die vorsätzliche vollendete Anstiftung zu vorsätzlicher Tat). Diss. Hamburg, 1970)。1974年にシュミットホイザー教授の助手となり、研究を続け、1982年に教授資格を取得した。論文は、Ausschluß der Autonomie durch Irrtum. Ein Beitrag zu mittelbarer Täterschaft und Einwilligung, 1984 である。

Geboren am 23. 5. 1941 in Berlin. Jurastudium in München, Hamburg, Tübingen und Göttingen. Promotion bei Schmidhäuser, Hamburg, 1974. Wissenschaftliche Assistentin seit 1974 und Habilitation 1982.

論文 (Aufsätze)

1. Tatbegriff und Teilnehmerdelikt. GA 1979, S. 252 ff.

2. Zu den Begriffen der Heimtücke und der Verdeckung einer Straftat. JR 1979, S. 441 ff., 485 ff.

116. ミーエ (Olaf Miehe)

論文 (Aufsätze)

12. Die neuere Entwicklung der Altersgruppenfrage im Strafrecht und Strafprozeßrecht. ZBlJRJW1 1982, S. 82 ff.

13. Fürsorgeerziehung und Heimunterbringung nach §§ 1666, 1909 BGB. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Lefferenz, 1983, S. 647 ff.

117a. モンテンブルック (Axel Montenbruck)

1942年5月17日に、シュウォーネミュンデに生まれた。ハンブルクとベルリンの両大学に学び、キール大学のハインツ・ワグナー教授の助手を務め、そこで学位を取得し、その後、1980年に教授資格を得、1981年に、ベルリン自由大学教授となった。

Geboren am 17. 5. 1942 in Swinemünde. Studium in Hamburg und Berlin. Wissenschaftlicher Assistent und Promotion bei Heinz Wagner, Kiel. Habilitation 1980. Prof. an der Freien Universität Berlin, 1981.

著書 (Bücher)

1. Wahlfeststellung und Werttypus im Strafrecht und Strafprozeßrecht. Entwicklung und Erprobung eines neuen Erklärungsmodells, 1976 (Kieler Diss.).
2. Strafrahen und Strafzumessung, 1983 (Kieler Habil.).
3. Thesen zur Notwehr, 1983.

論文 (Aufsätze)

1. Das Verhältnis des Factoringgeschäfts zum Kreditwesengesetz, zum Rechtsberatungsgesetz und zur Gewerbeordnung. MDR 1971, S. 541 ff.
2. Abweichung der Teilnehmervorstellung von der verwirklichten Tat. ZStrW Bd. 84, 1972, S. 323 ff.
3. „Entlassung aus der Zeugenrolle“ — Versuch einer Fortentwicklung der materiellen Beschuldigtentheorie. ZStrW Bd. 89, 1977, S. 878 ff.
4. Zum Tatbestand des Vollrausches. GA 1978, S. 225 ff.

118. モース (Reinhard Moos)

著書 (Buch)

2. Zur Reform des Strafprozeßrechts und des Sanktionenrechts für Bagatelldelikte, 1981.

論文 (Aufsätze)

14. Einleitende und verbindende Worte. Strafverfahrensreform, 1980, S. 169 ff., 193, 239 f., 271.
15. Die Zweiteilung der Hauptverhandlung im Strafprozeß. ÖJZ 1983, S. 561 ff., 593 ff.
16. Amalie und der Kräuterlikör. Kienapfel (hrsg.), Fälle und Lösungen zum Strafrecht, 1983, S. 38 ff.

119. ミュラー・ディーツ (Heinz Müller-Dietz)  
著書・編著 (Bücher)
22. Alles Was Recht Ist. Aphorismen und Glossen zu Recht, Staat und Gesellschaft, 1983.
23. Calliess — Müller-Dietz, Strafvollzugsgesetz. 3. Aufl., 1983.
24. Jung — Müller-Dietz, Anleitung zur Bearbeitung von Strafrechtsfällen, 1983.
25. Jung — Müller-Dietz, Reform der Untersuchungshaft — Vorschläge und Materialien —, 1983.
26. Jung — Müller-Dietz, § 218 StGB. Dimensionen einer Reform, 1983.  
論文 (Aufsätze)
97. Täter-Opfer-Ausgleich im Strafprozeß aus der Sicht des Strafrichters. Straffälligkeit und Wiedergutmachung, 1981, S. 61 ff.
98. Strafvollzugsrecht. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. 14, 1981, S. 936 ff.
99. Thomas Würtenberger zum 75. Geburtstag. NJW 1982, S. 229 f.
100. Aufgaben und Möglichkeiten der Verteidigung im Strafvollzug. Strafverteidiger 1982, S. 83 ff.
101. Resozialisierung straffälliger Frauen. ZStrVo 1982, S. 35 ff.
102. Die Stellung des Behinderten im Strafvollzug. ZfStrVo 1982, S. 94 ff.
103. Das Marburger Programm aus der Sicht des Strafvollzugs. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 599 ff.
104. Probleme der Strafzumessung — Sanktionsauswahl, -bemessung, Prognose. Recht und Gesetz im Dialog, 1982, S. 43 ff.
105. Die Bewährungshilfe in der Praxis und kriminologischer Forschung. H. Kury (hrsg.), Prävention abweichenden Verhaltens — Maßnahmen der Vorbeugung und Nachbetreuung, 1982, S. 423 ff.
106. Sozialstaatsprinzip und Strafverfahren. Festschr. f. Dünnebie, 1982, S. 75 ff.
107. Maßregelvollzugsgesetze in der Bundesrepublik Deutschland. Forensia, vol. 4, 1983, S. 117 ff.
108. Mord, lebenslange Freiheitsstrafe und bedingte Entlassung. Jura 1983, S. 568 ff., 628 ff.
109. Die Anstalt duldet keine Anstalten oder Anstaltsbrot, Anstaltswasser und Anstaltsluft müssen nun einmal sein. JZ 1983, S. 814 f.
110. Der Versagungsgrund der Schuldschwere nach § 57a I Nr. 2 StGB. Strafverteidiger 1983, S. 162 ff.
111. Vom ewigen Kreislauf im Strafvollzug. vorgänge Nr. 61, 1983, S. 2 f.

112. Maßregelvollzugsgesetze. ZfStrVo 1983, S. 19 ff.
113. Suizidverhütung, Strafrecht und Strafvollzugsrecht. ZfStrVo 1983, S. 206 ff.
114. Weiterbildung und Soziales Training im Strafvollzug. ZfStrVo 1983, S. 344 ff.
115. „Das Zuchthaus als verlorenes Paradies“. ZfStrVo 1983, S. 365
116. Das Bagatellprinzip im Strafrecht — am Beispiel des § 42 öStGB. Rechtsvergleichung, Europarecht und Staatenintegration Gedächtnisschr. f. L. Constantinesco, 1983, S. 517 ff.
117. Strafrecht und Psychiatrie im Werk Robert Musils. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Lefferenz, 1983, S. 353 ff.
118. Strafvollzug: Untersuchungshaft. Sieverts — Schneider (hrsg.), Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Lief. 1, 1983, S. 200 ff.
119. Strafvollzug: Erwachsenenbildung. Sieverts — Schneider, op. cit., S. 222 ff.
120. Zur Problematik verfassungsrechtlicher Pönalisierungsgebote. Jung — Müller-Dietz, § 218, op. cit., 1983, S. 77 ff.

121. ナウケ (Wolfgang Naucke)

著書 (Bücher)

- 5a. Strafrecht. Eine Einführung. 4. Aufl., 1982.
10. Hassemer — Lüderssen — Naucke, Fortschritte im Strafrecht durch die Sozialwissenschaften ? 1983.  
論文 (Aufsätze)
30. Christliche, aufklärerische und wissenschaftstheoretische Begründung des Strafrechts (Luther, Beccaria, Kant). Christentum, Säkularisation und modernes Recht, 1981, S. 1201 ff.
31. Der Tatverdacht. Zum Verhältnis von Strafprozeßrecht und neuerer Kriminologie. Festschrift der Wissenschaftlichen Gesellschaft an der Johann Wolfgang Goethe-Universität, 1981, S. 293 ff.
32. Kriminalpolitik des Marburger Programms 1882. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 525 ff.
33. Die Mißachtung des strafrechtlichen Rückwirkungsverbots 1933—1945. Zum Problem der Bewertung strafrechtlicher Entwicklungen als „unhaltbar“. Europäisches Rechtsdenken in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. H. Coing, 1982, S. 225 ff.
34. Philosophie pénale contemporaine et réparation civile. Archives de Philosophie du Droit. Tome 28, 1983, Philosophie Pénale. p. 1 ff.
35. Die Sozialphilosophie des sozialwissenschaftlich orientierten Strafrechts. Hassemer — Lüderssen — Naucke, op. cit., 1983, S. 1 ff.

121a. ノイマン (Ulfrid Neumann)

1947年8月20日に、ヘッセン州のゼリングゲンシュタットに生まれた。テュービンゲン大学に学び、1975年にミュンヘン大学助手となり、1978年に学位を取得した (Rechtsontologie und juristische Argumentation, 1979)。教授資格は、1983年に取得した (Probleme der Zurechnungsstruktur in Fällen eines zurechnungsrelevanten "Vorverschuldens" — Vorstudien zu einem dialogischen Modell strafrechtlicher Zurechnung, 1984)。いずれも、アルトゥール・カウフマン教授に提出した。1983年冬学期に、フランクフルト大学教授に招聘された。

Geboren am 20. 8. 1947 in Seligenstadt/Hessen. 1975—1983 wissenschaftlicher Assistent bei Arthur Kaufmann. Promotion 1978, Habilitation 1983 bei Kaufmann. SS 1983 Lehrstuhlsvertretung in Passau, WS 1983 Prof. in Frankfurt a. M.

共著 (Buch)

1. U. Schroth — Neumann, Neuere Theorien von Kriminalität und Strafe, 1980.

論文 (Aufsätze)

1. Der „mögliche Wortsinn“ als Auslegungsgrenze in der Rechtsprechung der Strafsenate des BGH, in: Neumann/Rahlf/v. Savigny, Juristische Dogmatik und Wissenschaftstheorie, 1976, S. 128 ff.
2. Schroth — Neumann, Das Problem der Geltung von Normen, in: Wahlfach-Examinatorium Rechtsphilosophie, 1976, S. 77 ff.
3. Acht Thesen zur Kritik und Metakritik der Rechtssprache, ARSP-Beiheft Nr. 9, 1977, S. 121 ff.
4. Formalisierung und Axiomatisierung von Rechtssätzen, in: Kaufmann/Hassemer (Hrsg.), Einführung in Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977, S. 132 ff.
5. Die Kritik der juristischen Logik, in: Kaufmann/Hassemer (Hrsg.), Einführung, op. cit., S. 139 ff.
6. Wissenschaftstheorie der Rechtswissenschaft, in: Kaufmann/Hassemer (Hrsg.), Einführung, op. cit., S. 174 ff.
7. Theorie der Gerechtigkeit. JuS 1980, S. 78 ff.
8. Rechtswissenschaft zwischen Ontologie und Ideologiekritik. ARSP-Beiheft Nr. 13, 1980, S. 217 ff.
9. Zur Problematik der Rekonstruktion von juristischen Argumentationen im Prädikatenkalkül, in: Loccumer Protokolle 31/1980, S. 128 ff.
10. Thesen zur Bedeutung des Falsifikationsmodells für die Rechtsdogmatik, in: Loccumer Protokolle 31/1980, S. 152 ff.

123. ノル (Peter Noll)

追悼文 (Nekrologe)

Hans Schultz, Peter Noll, 1926—1982. SchwZStr 99. Jg., 1982, S. 353 ff.; Klaus Lüderssen, Peter Noll†. NJW 1983, S. 1038; Günter Stratenwerth, Peter Noll†. JZ 1983, S. 118 f.; Aeppli, Prof. Peter Noll zum Gedenken. SchwJZ 79. Jg., 1983, S. 52.

著書 (Bücher)

9. Schweizerisches Strafrecht. Allgemeiner Teil I: Allgemeine Voraussetzungen der Strafbarkeit. 1981.
10. Schweizerisches Strafrecht. Besonderer Teil I: Delikte gegen den Einzelnen. 1983. 論文 (Aufsatz)
50. Die Berücksichtigung der Effektivität der Gesetze bei ihrer Schaffung. Theo Öhlinger, Methodik der Gesetzgebung. Legistische Richtlinien in Theorie und Praxis. 1982, S. 131 ff.

124. エーラー (Dietrich Oehler)

著書 (Bücher)

- 5a. Internationales Strafrecht. 2. Aufl., 1983.
7. Meinungsbildung durch den Rundfunk über Straftaten und deren Ahndung. 1982. 論文 (Aufsätze)
53. Ernst Heinitz zum 80. Geburtstag. JZ 1982, S. 33.
54. Angriffshandlungen und andere internationale Delikte als Tatbestände eines Besonderen Teils des internationalen Strafrechts. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 293 ff.

124a. オステンドルフ (Heribert Ostendorf)

1945年12月7日に、ヴェヒタ近郊のヴェストルップに生まれた。キール大学に学び、1972年に、H. ハーゲン教授に提出した論文 (Die Be- und Entreichung beim ungerechtfertigten Verbrauch und Gebrauch von Gegenständen und Leistungen, 1972) により、学位を取得し、その後、1978年から82年まで、ザムソン教授の助手を務めていたが、1982年に、教授資格を取得した (後出)。1982年8月に、ハンブルク大学第二法学部教授に就任した。

Geboren am 7. 12. 1945 in Vestrup/Vechta. Promotion bei H. Hagen, Kiel. 1974—1978 Richter, 1978—1982 Assistent bei Samson, Kiel. Habilitation bei ihm, 1982. SS 1982 Prof. Hamburg Rechtswissenschaft II.

著書 (Bücher)

1. Von der Rache zur Zweckstrafe, 1982.

2. Das Recht zum Hungerstreik. Verfassungsmäßige Absicherung und strafrechtliche Konsequenzen, 1983 (Kieler Habil., bei Samson).

論文 (Aufsätze)

1. Der Vermögensbegriff im Bereicherungs- und Schadensrecht. BB 1973, S. 822 ff.
2. Die Erledigung der Hauptsache im Zivilprozeß. DRiZ 1973, S. 387 ff.
3. Die Rechte des Rundfunk- und Fernsehempfängers bei Störungen durch Hochhäuser. JuS 1974, S. 756 ff.
4. Der Gutgläubenserwerb des Verwaltungstreuhandlers. Beispiel einer rechtsmethodischen Untersuchung. NJW 1974, S. 217 ff.
5. Noch einmal: Die Bereicherung beim Gebrauch fremder Vermögensgüter. JuS 1974, S. 447 ff.
6. Ist eine regelmäßige Beurteilung der Richter auf Lebenszeit von der Praxis her erforderlich und ist sie verfassungsgemäß? Eine Stellungnahme zu dem Entwurf der Justiz- und Sozialministerien Schleswig-Holstein: Dienstliche Beurteilung der Richter und Staatsanwälte. Schl-Holst. Anzeiger 1976, S. 71 ff.
7. Auf Generalprävention kann noch nicht verzichtet werden. Über die Ziele kriminalrechtlicher Maßnahmen. ZRP 1976, S. 281 ff.
8. Die Kriminalitätsrate in Schleswig-Holstein. Phänomen oder Phantom? (Eine Darstellung zum „Gesetz der konstanten Verhältnisse“ oder zum Aussagewert der polizeilichen Kriminalstatistik für die regionale Deliktsverteilung). MSchrKrim 1977, S. 304 ff.
9. Ostendorf — Hans Rudolf Buschmann, Die geheime Abstimmung im Parlament — Postulat oder Relikt? ZRP 1977, S. 153 ff.
10. Resozialisierung und Strafrechtsreform. Ein Bericht über eine internationale Fachtagung in der Heimvolkshochschule Ahrenburg. ZfStrVo 1977, S. 231 ff.
11. Strafvereitelung durch Strafverteidigung. Zur Diskussion um Gründe und Leitbild berufsmäßiger Strafverteidigung. NJW 1978, S. 1345 ff.
12. § 34 StGB — der neue Notstandsartikel des Grundgesetzes. RuP 1978, S. 137 ff.
13. Körperschaftssteuer-Anrechnung bei der Einziehung von Geschäftsanteilen an einer GmbH? BB 1979, S. 40 f.
14. Verteidigung am Scheideweg. JZ 1979, S. 252 ff.
15. Die öffentliche Identifizierung von Beschuldigten durch die Strafverfolgungsbehörden als Straftat. GA 1980, S. 445 ff.
16. Entwicklungen in der Rechtsprechung zur „Bildung krimineller bzw. terroristischer Vereinigungen“ §§ 129, 129a StGB. JA 1980, S. 499 ff.
17. Kustodialer Massenvollzug einbetoniert? Bericht über ein Sachverständigen-Hearing zum Neubau einer zentralen Jugendvollzugsanstalt in Schleswig-Holstein.

- MSchrKrim 1980, S. 242 ff.
18. Das öffentliche Klageerzwingungsverfahren — ein notwendiges Institut zur Kontrolle der Staatsanwaltschaft. RuP 1980, S. 200 ff.
  19. Die Informationsrechte der Strafverfolgungsbehörden gegenüber anderen staatlichen Behörden im Widerstreit mit deren strafrechtlichen Geheimhaltungspflichten. DRiZ 1981, S. 4 ff.
  20. Der strafrechtliche Schutz von Drittgeheimnissen. JR 1981, S. 444 ff.
  21. Strafbarkeit und Strafwürdigkeit von Hausbesetzungen. JuS 1981, S. 640 ff.
  22. Die strafrechtliche Rechtmäßigkeit rechtswidrigen hoheitlichen Handelns. JZ 1981, S. 165 ff.
  23. Bewährung ohne Freiheitsstrafe — eine Falltür im Jugendstrafrecht? NJW 1981, S. 165 ff.
  24. Das Geringfügigkeitsprinzip als strafrechtliche Auslegungsregel (Zugleich Anmerkung zu OLG Hamm NJW 1980, 2537). GA 1982, S. 333 ff.
  25. Bürgerwehren — ein Fall für den Staatsanwalt. Zur vergessenen Vorschrift „Bildung bewaffneter Haufen“ (§ 127 StGB). RuP 1982, S. 139 ff.
  26. Der praktische Fall: Der unliebsame Testkäufer, JuS 1982, S. 664 ff.
  27. Die Leibesfrucht zwischen Abtreibungs- und Lebensschutz. Beiträge zur Gerichtlichen Medizin, Band XL, 1982, S. 29 ff.
  28. Der praktische Fall: Der mißgebildete Fötus. JuS 1982, S. 200 ff.
  29. Grundzüge des konkreten Gefährdungsdelikts. JuS 1982, S. 426 ff.
  30. Negative Folgen der Fortsetzungstat? DRiZ 1983, S. 426 ff.
  31. Wider die Verselbständigung des sog. Ungehorsamsarrestes zu einer zusätzlichen jugendgerichtlichen Sanktion. ZBJRJW1 1983, S. 563 ff.
  32. Alternativen zur strafverurteilenden Konfliktserledigung. ZRP 1983, S. 302 ff.
  33. Strafverteidigung im „Dritten Reich“. Strafverteidiger 1983, S. 120 ff.
  34. Juristische Aspekte der extrakorporalen Befruchtung und des Embryotransfers beim Menschen. In: In-vitro-Fertilisation und Embryotransfer (Retortenbaby), hrsg. von U. Jüdes, 1983, S. 177 ff.

125. オットー (Harro Otto)

著書 (Bücher)

- 2a. Grundkurs Strafrecht. Allgemeine Strafrechtslehre. 2. Aufl., 1982.
6. Banktätigkeit und Strafrecht, 1983.

論文 (Aufsätze)

26. Die Reform des strafrechtlichen Schutzes gegen irreführende Werbung. GRUR



- 1982, S. 274 ff.
27. Anstiftung und Beihilfe. JuS 1982, S. 557 ff.
  28. Neue Tendenzen in der Interpretation der Tatbestandsmerkmale des Wuchers beim Kreditwucher. NJW 1982, S. 2745 ff.
  29. Straftaten leitender Personen von Banken. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum XI. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Caracas 1982, 1982, S. 29 ff.
  30. Ehrenschatz in der politischen Auseinandersetzung. JR 1983, S. 1 ff.
  31. Probleme des Kreditbetrugs, des Scheck- und Wechselmißbrauchs. Jura 1983, S. 16 ff.
  32. Können Parteispenden Betriebsausgaben sein? wistra 1983, S. 213 ff.
  33. République Fédérale d'Allemagne. Rapport nationale. — Partie dogmatique I — RIDP vol. 54, 1983, p. 539 ff.
  34. Beweisverbote aus steuerrechtlichen Mitwirkungspflicht? wistra 1983, S. 233 ff.

126. ベーターズ (Karl Peters)

祝賀文 (Glückwünsche)

Jürgen Baumann, Karl Peters 80 Jahre. JZ 1984, S. 81 f.

Klaus Tiedemann, Karl Peters zum 80. Geburtstag. NJW 1984, S. 161 f.

論文 (Aufsätze)

187. Justizgewährungspflicht und Abblocken von Verteidigungsvorbringen. Festschr. f. H. Dünnebier, 1982, S. 53 ff.
188. „Übergänge“ im Strafprozeß — dargestellt am Grundsatz der freien Beweiswürdigung. Festschr. f. Rudolf Gmür, 1983, S. 311 ff.
189. Gespräch und Briefwechsel zur Methode der Tatsachenerkenntnis in der Strafprozeßlehre. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 539 ff.

127. フィリップス (Lothar Philipps)

著書 (Buch)

2. Alternativen in der Multiple-Choice-Aufgabe und in der Juristischen Entscheidungssituation. Zentrum für Fernstudienentwicklung, 1982.

128. プライザー (Wolfgang Preiser)

祝賀文 (Glückwunsch)

Lüderssen — K.-H. Ziegler, Wolfgang Preiser zum 80. Geburtstag. JZ 1983, S. 219. Idee und Realität des Rechts in der Entwicklung internationaler Beziehungen. Fest-

gabe für Wolfgang Preisler, 1983.

Verzeichnis der Schriften von Wolfgang Preisler, *ibid.*, S. 209 ff.

著書 (Bücher)

2. Frühe völkerrechtliche Ordnungen der außereuropäischen Welt, 1976.
3. Macht und Norm in der Völkerrechtsgeschichte. Kleine Schriften zur Entwicklung der internationalen Rechtsordnung und ihrer Grundlegung, 1978.

128a. プッペ (Ingeborg Puppe)

論文 (Aufsätze)

13. Funktion und Konstitution der ungleichartigen Idealkonkurrenz. GA 1982, S. 143 ff.
14. Neue Entwicklungen in der Dogmatik des Vollrauschtatbestandes. Jura 1982, S. 281 ff.
15. Kausalität der Sorgfaltspflichtverletzung — BGH, NJW 1982, 292. JuS 1982, S. 660 ff.
16. Die Individualisierung der Tat in Anklageschrift und Bußgeldbescheid und ihre nachträgliche Korrigierbarkeit. NSTZ 1982, S. 230 ff.
17. Zurechnung und Wahrscheinlichkeit. Zur Analyse des Risikoerhöhungsprinzips. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 287 ff.

129. クヴェンゼル (Stephan Quensel)

論文 (Aufsätze)

49. Stigmatisierung durch Resozialisierung? Probleme einer Behandlungsideologie. Stigmatisierung durch Strafverfahren und Strafvollzug, 1981, S. 161 ff.
50. Wie wird man kriminell? Verlaufsmodell einer fehlgeschlagenen Interaktion zwischen Delinquenten und Sanktionsinstanz. Straffälligkeit und Wiedergutmachung, 1981, S. 27 ff.
51. St. Quensel — Max Rieländer — Adelheid Kühne, Zum Selbstbild von Heim- und Internatsjugendlichen: Stigma und Protest, Neurotisierung und Anpassung. MSchr-Krim 1983, S. 94 ff.
52. Stigmatisierung und kriminelle Karriere. W. Seitz (Hrsg.), Kriminal- und Rechts-Psychologie, 1983, S. 204 ff.
53. Gibt es eine Alternative zum Strafvollzug? R. Driebold (Hrsg.), Strafvollzug. Erfahrungen, Modelle, Alternativen, 1983, S. 55 ff.
54. Auf dem Weg zur realen Utopie: Gelsenkirchen, Bergedorf, Hoppenbank. *ebd.*, S. 167 ff.

130a. ランフト (Otfried Ranft)

論文 (Aufsätze)

7. Garantiepflichtwidriges Unterlassen der Deliktshinderung. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 815 ff.
8. Grundprobleme des Vollrauschtatbestandes (§ 323a StGB). Jura 1983, S. 193 ff., 239 ff.

130b. リース (Peter Rieß)

1932年6月4日に、ハンブルクで生まれた。ハンブルク大学で法律学を学び、1959年に、同大学のイブセン教授に提出した論文 *Parlamentarische Inkompatibilitäten im geltenden Staatsrecht des Bundes und der Länder* により学位を取得し、1960年から71年まで、裁判官、検察官、司法行政の職を歴任し、1971年以来、刑事訴訟法関係担当の参事官として、連邦司法省に勤務し、1977年から、ゲッチンゲン大学にも出講していた。1982年に、同大学名誉教授となった。

Geboren am 4. 6. 1932 in Hamburg. Jurastudium in Hamburg, Promotion bei Ipsen, Hamburg, 1959. 1960—1971 Richter, dann Staatsanwalt und in der Verwaltung tätig. Seit 1971 Leiter des Referats für Strafprozeßrecht im BMJ, Bonn. Seit 1977 Lehrbeauftragter für Strafprozeßrecht in Göttingen. 1982 Honorarprofessor dort.

著書 (Buch)

1. Vorstudien zu einer Theorie der Fußnoten. Den Autoren und Freunden des Verlags Walter de Gruyter zum Jahreswechsel 1983/84, 1983.

論文 (Aufsätze)

1. Parlamentarische Unvereinbarkeiten für Richter. DRiZ 1959, S. 273 ff.
2. Ist Unternehmereinheit bei fehlender Gesellschaftleridentität möglich? Deutsche Steuerrundschau, 1960, S. 2 ff.
3. Zur Abgrenzung von Mord und Totschlag. NJW 1968, S. 628 ff.
4. Die Anforderungen der Strafrechtsreform an die Gerichtshilfe. BewHi 1969, S. 320 ff.
5. Die Neufassung des Mordes im Regierungsentwurf 1962 eines neuen Strafgesetzbuches in kriminologischer und kriminalstatistischer Sicht. MSchrKrim 1969, S. 28 ff.
6. Die Strafzumessung nach dem Ersten Strafrechtsreformgesetz. Rechtliche, ethische und psychologische Erwägungen. BewHi 1970, S. 112 ff.
7. Die von den Schwurgerichten in Hamburg von 1954 bis 1966 abgeurteilten Kriminalität. Taten, Täter, Strafen. MSchrKrim 1970, S. 20 ff.
3. Vereinfachte Verfahrensvorschriften für den Einzelrichter in Strafsachen. JR

- 1975, S. 224 ff.
9. Der Beginn der Strafprozeßreform. Der deutsche Rechtspfleger, 1975, S. 213 ff.
  10. Die Durchführung der Hauptverhandlung ohne Angeklagten. Zugleich ein Beitrag zum neuen § 231a StPO. JZ 1975, S. 265 ff.
  11. Der Hauptinhalt des Ersten Gesetzes zur Reform des Strafverfahrensrechts (1. StVG). NJW 1975, S. 81 ff.
  12. Die Neugestaltung der Rechtsmittel in Strafsachen. Zum Diskussionsentwurf für ein Gesetz über die Rechtsmittel in Strafsachen der Bundes-Länder-Arbeitsgruppe „Strafverfahrensreform“. DRiZ 1976, S. 3 ff.
  13. Die Bestimmung und Prüfung der sachlichen Zuständigkeit und verwandter Erscheinungen im Strafverfahren. GA 1976, S. 1 ff.
  14. Ausschluß der Besetzungsrüge (§ 338 Nr. 1 StPO) bei irriger, aber vertretbarer Rechtsanwendung. GA 1976, S. 133 ff.
  15. Möglichkeiten einer Reform der Revision in Strafsachen. JR 1976, S. 309 ff.
  16. Die Besetzungsrüge in Strafsachen in der neueren Rechtsprechung des Bundesgerichtshofs. DRiZ 1977, S. 289 ff.
  17. Die Stellung des Verteidigers beim Verzicht auf die Verwendung präsen-ter Beweismittel. NJW 1977, S. 881 ff.
  18. Gesamtreform des Strafverfahrensrechts — eine lösbare Aufgabe? ZRP 1977, S. 67 ff.
  19. Der Beschuldigte als Subjekt des Strafverfahrens in Entwicklung und Reform der Strafprozeßordnung. Vom Reichsjustizamt zum Bundesministerium der Justiz, 1977, S. 373 ff.
  20. Bemerkungen zur Bedeutung des Preußischen Allgemeinen Landrechts von 1794 für die heutige Strafrechtsreform. GA 1978, S. 133 ff.
  21. Zur Revisibilität der freien tatrichterlichen Überzeugung. GA 1978, S. 257 ff.
  22. Das Strafverfahrensänderungsgesetz 1979. NJW 1978, S. 2265 ff.
  23. Die Hauptverhandlung in Abwesenheit des Angeklagten in der Bundesrepublik Deutschland. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum 10. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Budapest, 1978, S. 175 ff.
  24. Empfiehlt es sich, das Rechtsmittelsystem in Strafsachen, insbesondere durch Einführung eines Einheitsrechtsmittels, grundlegend zu ändern? Mit Thesen. Verhandlungen des 52. Deutschen Juristentages. Bd. 2, 1978, L. 35 ff.
  25. Zur Zuständigkeit der allgemeinen und besonderen Strafkammern. NJW 1979, S. 1536.
  26. Was bleibt von der Reform der Rechtsmittel in Strafsachen? Zu den Ergeb-

- nissen der Abteilung Strafprozeß des 52 Deutschen Juristentages. ZRP 1979, S. 193 ff.
27. Vereinfachte Verfahrensarten für die kleinere Kriminalität. H.-L. Schreiber (hrsg.), Strafprozeß und Reform, 1979, S. 113 ff.
  28. Thesen zur Reform des strafprozessualen Kostenrechts. H.-L. Schreiber (Hrsg.), op. cit., 1979, S. 150 ff.
  29. Die Vernehmung des Beschuldigten im Strafprozeß. JA 1980, S. 293 ff.
  30. Prolegomena zu einer Gesamtreform des Strafverfahrensrechts. Festschr. f. K. Schäfer zum 80. Geburtstag, 1980, S. 155 ff.
  31. Rieß — Jörg Thym, Rechtsschutz gegen strafprozessuale Zwangsmaßnahme. GA 1981, S. 189 ff.
  32. Die Besetzungsrügepräklusion (§ 222a, 222b StPO) auf dem Prüfstand der Rechtsprechung. JR 1981, S. 89 ff.
  33. Die Zukunft des Legalitätsprinzips. NStZ 1981, S. 2 ff.
  34. Die Ausschließung des Verteidigers in der Rechtswirklichkeit. NStZ 1981, S. 328 ff.
  35. Pflichtverteidigung — Zwangsverteidigung — Ersatzverteidigung — Reform der notwendigen Verteidigung. Strafverteidiger 1981, S. 460 ff. (auch in, 5. Strafverteidigertagung Berlin, 1981, S. 15 ff.).
  36. Statistische Beiträge zur Wirklichkeit des Strafverfahrens. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 253 ff.
  37. Neuordnung des Rechtsschutzes gegen strafprozessuale Zwangsmaßnahmen. ZRP 1981, S. 101 ff.
  38. Zur Entwicklung der Geschäftsbelastung in der ordentlichen Gerichtsbarkeit. DRiZ 1982, S. 201 ff.
  39. Über Aufhebungsgründe in Revisionsentscheidungen des Bundesgerichtshofs. NStZ 1982, S. 48 ff.
  40. Die Urteilsabsetzungsfrist (§ 275 I StPO). NStZ 1982, S. 441 ff.
  41. Legalitätsprinzip — Interessenabwägung — Verhältnismäßigkeit. Über die Grenzen von Strafverfolgungsverzicht und Strafverfolgungsverschärfung zur Aufrechterhaltung des inneren Friedens. Festschr. f. H. Dünnebiel, 1982, S. 149 ff.
  42. Eröffnungsentscheidung auf unvollständiger Aktengrundlage. NStZ 1983, S. 247 ff.
  43. Entwicklung und Bedeutung der Einstellung nach § 153a StPO. ZRP 1983, S. 93 ff.
  44. Über die Beziehungen zwischen Rechtswissenschaft und Gesetzgebung im heutigen

Strafprozeßrecht. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 529 ff.

131. ロリンスキー (Klaus Rolinski)

論文 (Aufsätze)

9. Über den Zusammenhang von Wohnumfeld und Kriminalität. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/1, 1983, S. 465 ff.
10. Ersetzt Common Law partiell kodifiziertes Recht? Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 143 ff.
11. Wohnen und Kriminalität. W. Seitz (Hrsg.), Kriminal- und Rechts-Psychologie, 1983, S. 249 ff.

133. ロクシン (Claus Roxin)

共著 (Buch)

12. Roxin — Arzt — Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht, 1983.  
論文 (Aufsätze)
71. Bemerkungen zur sozialen Adäquanz im Strafrecht. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 303 ff.
72. Der Allgemeine Teil des Strafrechts, op. cit., S. 1 ff.

134. ルドルフィー (Hans-Joachim Rudolphi)

著書 (Buch)

- 3a. Fälle zum Strafrecht. Allgemeiner Teil. 2. Aufl., 1983.  
論文 (Aufsätze)
30. Tötungsverbot und Selbstbestimmungsrecht. Altenpflege 1981, S. 308 ff., 346 ff.
31. Spenden an politische Parteien als Bestechungsstraftaten. NJW 1982, S. 1417 ff.
32. Schutzgut und Rechtfertigungsprobleme der Gewässerunreinigung im Sinne des § 324 StGB. ZSchr. f. Wasserrecht, 1982, S. 197 ff.
33. Probleme der strafrechtlichen Verantwortlichkeit von Amtsträgern für Gewässerunreinigungen. Festschr. f. H. Dünnebie, 1982, S. 561 ff.
34. Das virtuelle Unrechtsbewußtsein als Strafbarkeitsvoraussetzung im Widerstreit zwischen Schuld und Prävention. Unrechtsbewußtsein. Aus der Sicht des Täters. Aus der Sicht des Richters, 1982, S. 1 ff.
35. Das Problem der sozialen Zweckverfehlung beim Spendenbetrug. Festschr. f. U.

Klug. Bd. II, 1983, S. 315 ff.

135. リューピング (Hinrich Rüping)

著書 (Buch)

4. Das Strafverfahrensrecht. 2. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

19. Therapie und Zwang bei untergebrachten Patienten. — Möglichkeiten und Grenzen von Zwangsmaßnahmen am Beispiel des Unterbringungsrechts für Nordrhein-Westfalen —. JZ 1982, S. 744 ff.

20. Strafverfahren als Sensation — Zur Freiheit der Gerichtsorgane und ihren Schranken. Festschr. f. H. Dünnebie, 1982, S. 391 ff.

21. Der psychisch Kranke als Sicherheitsrisiko. NStZ 1983, S. 13 f.

22. Nationalsozialistische Rechtsprechung am Beispiel der SS- und Polizei-Gerichte. NStZ 1983, S. 112 ff.

23. Das Verhältnis von Staatsanwaltschaft und Polizei. Zum Problem der Einheit der Strafverfolgung. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 894 ff.

24. Durchsuchung, Zufallsfunde und Verwertungsverbote im Steuerstrafverfahren. G. Kohlmann (Hrsg.), Strafverfolgung und Strafverteidigung im Steuerstrafrecht. 1983, S. 267 ff.

25. „Auflockerung“ im Strafverfahrensrecht. Grundsätzliche Entwicklung zwischen Liberalismus, „deutschem Gemeinrecht“ und Naturrecht. Recht, Rechtsphilosophie, Nationalsozialismus, 1983, S. 65 ff.

136. ザック (Fritz Sack)

論文 (Aufsatz)

31. Anmerkung über die Kontrolle staatlichen Handelns. KrimJ 1982, S. 241 ff.

137. サムソン (Erich Samson)

著書 (Bücher)

1a. Strafrecht I. 5. Aufl., 1983.

3a. Strafrecht II. 4. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

14. Strafreitelung auf Zeit. JA 1982, S. 181 ff.

15. Möglichkeiten einer legislatorischen Bewältigung der Parteipendenproblematik. wistra 1983, S. 235 ff.

16. Irrtumsprobleme im Steuerstrafrecht. G. Kohlmann (Hrsg.), Strafverfolgung und

Strafverteidigung im Steuerstrafrecht, 1983, S. 99 ff.

138. ザルシュテット (Werner Sarstedt)

著書 (Buch)

2a. W. Sarstedt — Rainer Hamm, Die Revision in Strafsachen. 5. Aufl., 1983.

141. シャフスタイン (Friedrich Schaffstein)

著書 (Buch)

7b. Jugendstrafrecht. 8. Aufl., 1983.

論文 (Aufsätze)

62a. Reformpläne im Bereich des Jugendkriminalrechts. KrimPäd-Praxis, 1975, S. 3 ff.

75. Aufgabe und verfahrensrechtliche Stellung der Jugendgerichtshilfe. Festschr. f. H. Dünnebier, 1982, S. 661 ff.

141a. シャル (Hero Schall)

1942年10月18日に、ドレスデンで生まれた。チュービンゲン、ベルリン、ゲッチンゲンの各大学で法律学を学び、ゲッチンゲン大学に籍を置いて司法修習を続け、1973年に、ロクシン教授に提出した論文により、学位を取得した(後出)。1974年に、ホルン教授の助手となり、1977年には、同教授とともにキールに移った。1982年に、オスナブリュック大学教授となった。

Geboren am 18. 10. 1942 in Dresden. 1962—1966 Jura-Studium in Tübingen, Berlin und Göttingen. Promotion bei Roxin u. Schreiber, 1973. 1974—1977 Wissenschaftlicher Assistent bei Horn, Göttingen u. 1977—1982 bei ihm in Kiel. 1982 Professor in Osnabrück.

著書 (Buch)

1. Die Schutzfunktion der Strafbestimmung gegen den Hausfriedensbruch. Ein Beispiel für die soziologisch fundierte Auslegung strafrechtlicher Tatbestände, 1974.

論文 (Aufsätze)

1. Amelung — Schall, Zum Einsatz von Polizeispitzeln: Hausfriedensbruch und Notstandsrechtfertigung, Wohnungsgrundrecht und Durchsuchungsbefugnis. — OLG München, DVBl 1973, 221. JuS 1975, S. 565 ff.

2. Ehegattensplitting und Tagessatzsystem der Geldstrafe — OLG Düsseldorf, NJW 1977, 260. JuS 1977, S. 307 ff.

3. Bedeutung der zivilrechtlichen Verjährungseinrede bei Anordnung der Wiedermachungsaufgabe. NJW 1977, S. 1045 ff.



4. Auslegungsfragen des § 179 StGB und das Problem der eigenhändigen Delikte — KG, NJW 1977, 817. JuS 1979, S. 104 ff.
5. Hausbesetzungen im Lichte der Auslegung des § 123 StGB. NStZ 1983, S. 241 ff.

142. シルト (Wolfgang Schild)

著書 (Buch)

4. Der Strafrichter in der Hauptverhandlung, 1983.  
論文 (Aufsätze)
40. Freiheit — Gleichheit — „Selbständigkeit“ (Kant): Strukturmoment der Freiheit. Johannes Schwartländer (Hrsg.), Menschenrechte und Demokratie, 1981, S. 135 ff.
41. Der strafrechtsdogmatische Begriff der Bande. GA 1982, S. 55 ff.
42. Das strafrechtliche Problem der Sportverletzung (vorwiegend im Fußballkampfspiel). Jura 1982, S. 464 ff., 520 ff., 585 ff.
43. Strafe — Vergeltung oder Gnade? SchwZStr 99. Jg., 1982, S. 364 ff.
44. Aufklärerisches Strafrecht als Erziehungsrecht. Gedanken zu Ernst Gottlob Morgenbessers Anmerkungen zum ALR (1798). ZSchr. f. Neuere Rechtsgeschichte, 1982, S. 26 ff.
45. Der Richter in der Hauptverhandlung. Thesen. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 37 ff.
46. Das Gericht in Hegels Rechtsphilosophie. Überlieferung und Aufgabe. Festschr. f. Erich Heintel, 1982, S. 267 ff.
47. Die der Natur der Menschen einzig angemessene Republik des Ernst Gottlob Morgenbessers. R. Brandt (hrsgg.), Rechtsphilosophie der Aufklärung. Symposium Wolfenbüttel 1981, 1982, S. 424 ff.
48. Die Bande des § 30 BtMG als Organisation. NStZ 1983, S. 69 f.
49. Einige philosophische Grundlagen des StGB-Lehrbuches der DDR. Paul Trappe (Hrsg.), Zeitgenössische Rechtskonzeptionen. 9. Weltkongreß für Rechts- und Sozialphilosophie 1979 Basel. ARSP Suppl. 1, III, 1983, S. 91 ff.
50. Begründungen des Eigentums in der Politischen Philosophie des Bürgertums. Locke — Kant — Hegel. Johannes Schwartländer — Dietmar Willoweit (Hrsg.), Das Recht des Menschen auf Eigentum, 1983, S. 33 ff.
51. Die nationalsozialistische Ideologie als Prüfstein des Naturrechtsgedankens. Das Naturrechtsdenken heute und morgen. Gedächtnisschr. f. René Marcic, 1983, S. 437 ff.
52. Das Problem eines Rechts auf Arbeit bei Karl Marx. Hans Ryffel — Johannes Schwartländer (Hrsg.), Das Recht des Menschen auf Arbeit, 1983, S. 153 ff.

143a. シュルユヒター (Ellen Schlüchter)

1938年4月26日に、ベルリンで生まれた。大学助手の経歴はなく、検察官としての地位で大学関係の仕事をしていた。テュービンゲン大学のパウマン教授の下で、1976年に学位を取得、1982年には教授資格を得た。1984年3月に、ケルン大学からの招聘を受けて就任した。

Geboren am 26. 4. 1938 in Berlin. 1974-1978 Staatsanwältin im Hochschuldienst tätig, Promotion 1976 und Habilitation 1982 bei Jürgen Baumann in Tübingen. PD Tübingen 1982, 1984 SS Professor an der Universität zu Köln.

著書 (Bücher)

1. Der Grenzbereich zwischen Bankrottdelikten und unternehmerischen Fehlentscheidungen, 1977 (Tübinger Diss.).
2. Das Strafverfahren, 1981; 2. Aufl., 1983.
3. Irrtum über normative Tatbestandsmerkmale im Strafrecht, 1983 (Tübinger Habil., 1982).

論文 (Aufsätze)

1. Das neue Haftrecht: Bedeutung und Auslegung für die Praxis. MDR 1973, S. 96 ff.
2. Der Vermögensschaden im Sinne des § 263 StGB aus wirtschaftlicher Sicht. Dargestellt am Fall von Vertragsschlüssen, erschlichen durch Täuschung über die Bedeutung des Bestellscheins. MDR 1974, S. 617 ff.
3. Grundfälle zur Lehre von der Kausalität. JuS 1976, S. 312 ff., 378 ff., 518 ff., 793 ff., 1977, S. 104 ff.
4. Die Krise im Sinne des Bankrottstrafrechts. MDR 1978, S. 265 ff.
5. Tatbestandsmerkmal der Krise — überflüssige Reform oder Versöhnung des Bankrottstrafrechts mit dem Schuldprinzip? MDR 1978, S. 977 ff.
6. Beschränktes Einsichtsrecht des Strafgefangenen in seine Gesundheitsakte. Arztrecht 1980, S. 216 ff.

144. ウェルナー・シュミット (Werner Schmid)

論文 (Aufsätze)

16. Bedingte Prozeßhandlungen im Strafprozeß? GA 1982, S. 95 ff.
17. Über den Zugang strafprozessualer Willenserklärungen. Festschr. f. H. Dünnebier, 1982, S. 101 ff.

145. シュミットホイザー (Eberhard Schmidhäuser)

著書 (Bücher)

6a. Strafrecht. Besonderer Teil. Grundriß. 2. Aufl., 1983.

7. Strafrecht. Allgemeiner Teil. Studienbuch, 1982.

論文 (Aufsatz)

33. Die „Gesetzesverletzung“ — Bemerkungen zur Terminologie im materiellen und formellen Strafrecht. Festschr. f. H. Dünnebieber, 1982, S. 407 ff.

147. ゲルハルト・シュミット (Gerhard Schmidt)

論文 (Aufsätze)

22. Der Zweckgedanke im Strafrecht. JA 1982, 406 ff.

23. Paul Johann Anselm Feuerbach. DRiZ 1983, S. 185 ff.

148. ルドルフ・シュミット (Rudolf Schmitt)

論文 (Aufsätze)

29. Übungsklausur Strafrecht. Jura 1983, S. 658 ff.

30. Eugenische Indikation vor und nach der Geburt. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 329 ff.

149. シュナイダー (Hans Joachim Schneider)

著書 (Bücher)

4a. Kriminologie. Jugendstrafrecht. Strafvollzug. 2. Aufl., 1982.

9. Schneider (hrsg.), Das Verbrechensopfer in der Strafrechtspflege, 1982.

10. Kriminalität und abweichendes Verhalten, 1983 (Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. 14, 1981 の普及版).

論文 (Aufsätze)

102. Hauptrichtungen der Kriminologie. H. J. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts, 1981, S. 63 ff.

103. Psychoanalytische Kriminologie. Schneider, op. cit., S. 114 ff.

104. Ursula u. H. J. Schneider, Sexualkriminalität. Schneider, op. cit., S. 344 ff.

105. Wirtschaftskriminalität. Schneider, op. cit., S. 359 ff.

106. Organisiertes Verbrechen. Schneider, op. cit., S. 377 ff.

107. Politische Kriminalität am Beispiel des Völkermordes. Schneider, op. cit., S. 391 ff.

108. Kinder- und Jugendkriminalität. Schneider, op. cit., S. 452 ff.

109. Alterskriminalität. Schneider, op. cit., S. 528 ff.

110. Prostitution. Schneider, op. cit., S. 565 ff.

111. Kriminalität, Architektur und Städtebau. Schneider, op. cit., S. 607 ff.

112. Massenmedien und Kriminalität. Schneider, op. cit., S. 631 ff.
113. Das Opfer im Verursachungs- und Kontrollprozess der Kriminalität. Schneider, op. cit., S. 683 ff.
114. Strafgesetzgebung. Schneider, op. cit., S. 711 ff.
115. Kriminalistik. Schneider, op. cit., S. 721 ff.
116. Kriminalprognose. Schneider, op. cit., S. 816 ff.
117. Behandlung des Rechtsbrechers in der Strafanstalt und in Freiheit. Schneider, op. cit., S. 899 ff.
118. Der gegenwärtige Stand der Viktimologie in der Welt. Schneider(hrsg.), Das Verbrechensopfer in der Strafrechtspflege 1982, S. 9 ff.
119. Opfer des Terrorismus. Schneider, op. cit., 1982, S. 298 ff.
120. Opfer des Völkermordes. Schneider, op. cit., 1982, S. 305 ff.
121. Aus der Sicht des Kriminologen. Oehler (hrsgg.), Meinungsbildung durch den Runfunk über Straftaten und deren Ahndung, 1982, S. 41 ff.
122. Prostitution. Sieverts — Schneider, Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Lief. 1, 1983, S. 1 ff.
123. Viktimologie. W. Seitz (hrsg.), Kriminal- und Rechts-Psychologie, 1983, S. 236 ff.

150. シェッヒ (Heinz Schöch)

共著 (Bücher)

- 1a. Kaiser — Schöch — Kerner, Strafvollzug. Ein Lehrbuch. 3. Aufl., 1982.
- 2a. Kaiser — Schöch, Kriminologie — Jugendstrafrecht — Strafvollzug. 2. Aufl., 1982.  
論文 (Aufsätze)
19. Rettet die sozialtherapeutische Anstalt der Maßregel der Besserung und Sicherung! ZRP 1982, S. 207 ff.
20. Das Marburger Programm aus der Sicht der modernen Kriminologie. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 864 ff.
21. Die Beurteilung von Schwergaden schuld mindernder oder schuldausschließender Persönlichkeitsstörungen aus juristischer Sicht. MSchrKrim 1983, S. 333 ff.
22. Experimente in Strafverfahren und ihre Auswirkungen auf strafrechtliche Sanktionen. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/2, 1983, S. 1083 ff.
23. Die Gerichtshilfe aus kriminologischer und verfahrensrechtlicher Sicht. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 127 ff.

154. シュライバー (Hans-Ludwig Schreiber)

論文 (Aufsätze)

31. Die Regelung der strafrechtlichen Verantwortlichkeit im Allgemeinen Teil des neuen deutschen Strafgesetzbuches. Jescheck (hrsg.), Strafrechtsreform in der BRD und in Italien, 1981, S. 71 ff.
32. Widersprüche und Brüche in heutigen Strafrechtskonzeptionen. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 279 ff.
33. Empirische Forschungen zur Vorbereitung einer Reform der Hauptverhandlung. Strafverfahrensreform, 1982, S. 241 ff.
34. Probleme des Beweisrechts, insbesondere des Sachverständigenbeweises. Jescheck — Kaiser, Erstes deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1982, S. 153 ff.
35. Recht und Ethik am Beispiel des Arztrechts. Festschr. f. H. Dünnebie, 1982, S. 633 ff.
36. Kriterien des Hirntodes. JZ 1983, S. 593 ff.
37. Vorüberlegungen für ein künftiges Transplantationsgesetz. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 341 ff.
38. Schuld und Schuldfähigkeit im Strafrecht. Justiz und Recht. Festschr. aus Anlaß 10jährigen Bestehens der Deutschen Richterakademie in Trier, 1983, S. 73 ff.

155. フリードリヒ・クリスティアン・シュレーダー (Friedrich Christian Schroeder)

著書 (Buch)

17. Das Strafrecht des realen Sozialismus. Eine Einführung am Beispiel der DDR, 1983.

論文 (Aufsätze)

- 92a. Die Peinliche Gerichtsordnung Kaiser Karls V. (Carolina) von 1532. Regensburg — Stadt der Reichstage, 1980, S. 25 ff.
99. Schreien als Gewalt und Schuldspruchsberichtigung durch Beschluß — BGH, NJW 1982, 189. JuS 1982, S. 491 ff.
100. Die Gefährdungsdelikte. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum XI. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Caracas 1982, 1982, S. 1 ff.
101. Nötigung und Erpressung durch Forderung von Gegenleistungen? JZ 1983, S. 284 ff.
102. Grenzen der Rationalisierung des Strafverfahrens. NJW 1983, S. 137 ff.
103. Fahrlässige Vermögensdelikte im Strafrecht des realen Sozialismus. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 483 ff.

156a. シューバルト (Martin Schubarth)

著書 (Buch)

2. Kommentar zum schweizerischen Strafrecht. Schweizerisches Strafgesetzbuch Besonderer Teil. 1. Bd.: Delikt gegen Leib und Leben. Art. 111—136 StGB, 1982.  
論文 (Aufsatz)
16. Reform des Schweizerischen Strafgesetzbuches — Gewaltverbrechen. ZRP 1982, S. 133 f.

157. シューラー・シュプリンゴルム (Horst Schüler-Springorum)

編著 (Bücher)

4. Mehrfach auffällig. Untersuchungen zur Jugendkriminalität, 1982.
5. Jugend und Kriminalität. Kriminologische Beiträge zur kriminalpolitischen Diskussion, 1983.
6. Schüler-Springorum — Albrecht (hrsg.), Jugendstrafe an Vierzehn- und Fünfzehnjährigen, 1983.  
論文 (Aufsätze)
30. Ein Strafverfahren mit nichtöffentlicher Hauptverhandlung? NSTZ 1982, S. 305 ff.
31. Zur aktuellen Diskussion über Strafe und Erziehung in der deutschen Jugendgerichtsbarkeit. Festschr. f. H. Dünnebie, 1982, S. 649 ff.
32. Ausländerkriminalität. Ursachen, Umfang und Entwicklung. NSTZ 1983, S. 529 ff.
33. Société moderne et délinquance juvénile. Rev. int. crim. pol. tech. vol. 36, 1983, p. 31 ff.

158. シューネマン (Bernd Schünemann)

論文 (Aufsätze)

26. Grundfragen der Revision im Strafprozeß. JA 1982, S. 71 ff., 123 ff.
27. Fahrlässige Tötung durch Abgabe von Rauschmitteln? — Besprechung des Urteils BGH, NSTZ 1981, 350 —. NSTZ 1982, S. 60 ff.
28. Strafrechtsdogmatische und kriminalpolitische Grundfragen der Unternehmenskriminalität. wistra 1982, S. 41 ff.
29. Einige vorläufige Bemerkungen zur Bedeutung des viktimologischen Ansatzes in der Strafrechtsdogmatik. Schneider (hrsg.), Das Verbrechenopfer in der Strafrechtspflege, 1982, S. 407 ff.
30. Experimentelle Untersuchungen zur Reform der Hauptverhandlung in Strafsachen. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und

Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/2, 1983, S. 1109 ff.

31. Umsturzversuche deutscher Studenten einst und jetzt — Ein strafrechtsgeschichtlicher Vergleich der deutschen Burschenschaft und der Unbedingten mit der APO und der RFZ. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 279 ff.
32. Die Gesetzesinterpretation im Schnittfeld von Sprachphilosophie, Staatsverfassung und juristischer Methodenlehre. Festschr. f. U. Klug. Bd. I, 1983, S. 169 ff.

160. シュウィント (Hans-Dieter Schwind)

共編 (Buch)

9. Schwind — Böhm (hrsg.), Strafvollzugsgesetz (StVollzG). Gesetz über den Vollzug der Freiheitsstrafe und der freiheitsentziehenden Maßregeln der Besserung und Sicherung vom 16. März 1976 (BGBl. I, 1976, 581). Großkommentar, 1983.

論文 (Aufsätze)

35. Dunkelfeldforschung. Schneider (hrsg.), Die Psychologie des 20. Jahrhunderts, Bd. 14, 1981, S. 223 ff.
36. Kriminalgeographie. Schneider, op. cit., S. 248 ff.
37. Wie lösen wir die Ausländerfrage? Das Gastarbeiterproblem aus (kriminal-)politischer Sicht. Krim 1983, S. 303 ff., 358 ff.
38. Bewährungshilfe im Überblick. Entwicklung, Aufgaben, Probleme. ZfStrVo 1983, S. 211 ff.
39. Die Göttinger und die Bochumer Dunkelfeldforschung. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung u. Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/1, 1983, S. 169 ff.

161. シュウィング (Erich Schwinge)

著書 (Buch)

13. Der Staatsmann. Anspruch und Wirklichkeit in der Politik, 1983.

161-1. ゼーボーデ (Manfred Seebode)

論文 (Aufsätze)

13. Verzicht auf Haftentschädigung? NSTZ 1982, S. 144 ff.
14. Verbrechensverhütung durch staatliche Hilfe bei der Schuldenregulierung Straffälliger. ZRP 1983, S. 174 ff.
15. Polizeiliche Notwehr und Einheit der Rechtsordnung. Festschr. f. U. Klug. Bd.

II, 1983, S. 359 ff.

161a. ゼールマン (Kurt Seelmann)

論文 (Aufsätze)

9. Strafzwecke und Wiedergutmachung. Straffälligkeit und Wiedergutmachung, 1981, S. 147 ff.
10. Grundfälle zu den Straftaten gegen das Vermögen als Ganzes. JuS 1982, S. 268 ff., 509 ff.
11. Zur materiell-rechtlichen Problematik des V-Mannes. Die Strafbarkeit des Lockspitzels und des Verlockten. ZStrW Bd. 95, 1983, S. 797 ff.

161b. ゼッサー (Klaus Sessar)

論文 (Aufsätze)

21. Wohin könnte sich unser „Straf“-Recht entwickeln? Tendenzen und Alternativen unter dem Aspekt der Wiedergutmachung als Sanktion. Straffälligkeit und Wiedergutmachung, 1981, S. 163 ff.
22. Connaissance et Fonctionnement de la Justice Pénale: Perspectives sociologiques et criminologiques. Colloques Internationaux du Centre National de la Recherche Scientifique, 1982, p. 103 ff.
23. Einleitung. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/2, 1983, S. 725 ff.
24. Schadenswiedergutmachung in einer künftigen Kriminalpolitik. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 145 ff.

163a. ソンネン (Bernd-Rüdiger Sonnen)

論文 (Aufsätze)

11. Die soziale Zweckverfehlung als Vermögensschaden beim Betrug. JA 1982, S. 593 f.
12. Strafrechtliche Grenzen des Handelns mit Optionen auf Warentermin-Kontakte. wistra 1982, S. 123 ff.
13. Fahrverbot und Entziehung der Fahrerlaubnis nach dem StGB. JA 1983, S. 300 ff.

164. シュベンデル (Günter Spendel)

著書 (Buch)



3. Josef Kohler. Bild eines Universaljuristen, 1983.

論文 (Aufsätze)

55. „Heimtücke“ und gesetzliche Strafe bei Mord. Zum Urteil des BGH v. 26. 8. 1982—4 StR 357/82. JR 1983, S. 269 ff.
56. Jurist und Logik — Ulrich Klug zum 70. Geburtstag. JZ 1983, S. 865 ff.
57. Justiz und NS-Verbrechen. Die „Standgerichtsverfahren“ gegen Admiral Canaris u. a. in der Nachkriegsrechtsprechung. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 375 ff.

164b. シュテファン (Egon Stephan)

共著 (Buch)

2. Villmow — Stephan, Jugendkriminalität in einer Gemeinde. Eine Analyse erfragter Delinquenz und Viktimisierung sowie amtlicher Registrierung, 1983.

論文 (Aufsätze)

18. Psychologische Intervention als kriminalpolitisches Instrument zur Bekämpfung von Trunkenheitsdelikten im Verkehr. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 163 ff.
19. Dunkelfeld und selbstberichtete Delinquenz. W. Seitz (hrsg.), Kriminal- und Rechts-Psychologie, 1983, S. 40 ff.
20. Freizeitgestaltung und Jugendkriminalität. op. cit., S. 74 ff.

166. シュトラーターテンウェルト (Günter Stratenwerth)

著書 (Bücher)

11. Schweizerisches Strafrecht. Allgemeiner Teil I: Die Straftat, 1982.
12. G. Stratenwerth — Andreas Bernoulli, Der schweizerische Strafvollzug. Ergebnisse einer empirischen Untersuchung, 1983.

論文 (Aufsätze)

45. Peter Noll †. JZ 1983, S. 118 f.
46. Zum Straftatbestand des Missbrauchs von Insiderinformationen. Festschr. f. Frank Vischer, 1983, S. 667 ff.

167. シュトラー (Walter Stree)

共著 (Buch)

- 3b. Schönke — Schröder, StGB. 21. Aufl., 1982.

論文 (Aufsätze)

34. Beschädigung eines Polizeistreifenwagens — BGH 31, 185. JuS 1983, S. 836 ff.
35. Das Merkmal der besonders schweren Schuld im Rahmen des § 57a StGB. NSTZ

1983, S. 289 ff.

36. Ingerenzprobleme. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 395 ff.

167-1. シュトレング (Franz Streng)

1947年2月1日に、バイエルン州のウッフエンハイム近郊のアスパッハホーフに生まれた。ヴェルツブルク、ベルリン、ハイデルベルヒの各大学で法律学を学び、1974年にレフェレンツ教授に提出した論文 (Die psychoanalytischen Theorien zur Sexualkriminalität. Jur. Diss. Heidelberg, 1974) により学位を取得し、1975年には、ハイデルベルヒ大学犯罪学研究所の助手として研究を続けていたが、1983年に、同大学私講師となった (Strafzumessung und relative Gerechtigkeit. Eine Untersuchung zu rechtlichen, psychologischen und soziologischen Aspekte ungleicher Strafzumessung, 1984)。

Geboren am 1. 2. 1947 in Aspachhof/Uffenheim in Bayern. Jura-Studium in Würzburg, Berlin und Heidelberg. Promotion bei Leferenz, 1974. Seit 1975 wissenschaftlicher Assistent am Institut für Kriminologie der Univ. Heidelberg. Habilitation im SS 1983, Heidelberg.

著書 (Buch)

1. Strafmentalität und juristische Ausbildung. Eine Untersuchung der Einstellung junger Juristen zu Kriminalität und Strafe, 1979.  
論文 (Aufsätze)
1. Psychoanalyse und Strafrecht. MSchrKrim 1976, S. 77 ff.
2. Schußwaffen-Kriminalität. Das Verhältnis des Täters zu seiner Waffe und die Bedeutung bei Schußwaffe für Entstehung und Verlauf der Tat. Krim 1977, S. 197 ff.
3. F. Streng — Hans Udo Störzer, Kriminalität und Publicity. Zur kriminogenen Wirkung einer bestimmten Kriminalberichterstattung. Krim 1977, S. 499 f.
4. Zur Kriminalität der braven Bürger. Bericht aus einer Subkultur. KrimJ 1977, S. 205 ff.
5. F. Streng — H. U. Störzer, Bericht über das 13. Colloquium der süddeutschen kriminologischen Institute. MSchrKrim 1977, S. 375 ff.
6. Brandstiftung und Sexualität. Sexualität und soziale Kontrolle. Festschr. f. H. Leferenz zu seinem 65. Geburtstag, 1978, S. 41 ff.
7. Strafmentalität und Berufswunsch. Zu einem subjektiven Aspekt sozialer Kontrolle. Krim 1979, S. 68 ff.
8. Anmerkungen zur Situation und Perspektive der kriminologischen Juristenausbildung. KrimJ 1979, S. 143 ff.
9. Schuld, Vergeltung, Generalprävention. Eine tiefenpsychologische Rekonstruktion

strafrechtlicher Zentralbegriffe. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 637 ff.

10. Jugenddelinquenz als gesellschaftliche Herausforderung. Aktuelle Situation, Ursachen, Vorbeugungsstrategien. Bemerkungen aus kriminologischer Sicht. Strafvollzug und Jugenddelinquenz. Katholische Akademie Trier, 1982, S. 13 ff.
11. Streng — Störzer, Bericht über das 17. Colloquium der südwestdeutschen Kriminologischen Institute. MSchrKrim. 1982, S. 30 ff.
12. Jugendkriminalität als gesellschaftliche Herausforderung. Aktuelle Situation — Ursachen — Vorbeugungsstrategien. In: Bundeskriminalamt, Bibliothek (Hrsg.): Jugendkriminalität. Eine Auswahlbibliographie des deutschsprachigen Schrifttums, 1982 (Auch in: Eberhard Pies (hrsg.), Strafvollzug an Jugendlichen, 1982, S. 13 ff.).
13. Richter und Sachverständiger. Zum Zusammenwirken von Strafrecht und Psychowissenschaften bei der Bestimmung der Schuldfähigkeit (§§ 20, 21 StGB). Festschrift für Leferenz zum 70. Geburtstag, 1983, S. 397 ff.
14. Das Aussetzungsverbot des § 30 I S. 2 JGG. Zugleich eine Besprechung zum Urteil des BGH v. 24. 2. 1983—1 StR 821/82. JR 1983, S. 485 ff.

167a. テンクホフ (Jörg Tenckhoff)

論文 (Aufsatz)

5. Die Kriminalprognose bei Strafaussetzung und Entlassung zur Bewährung. DRiZ 1982, S. 95 ff.

170. ティーデマン (Klaus Tiedemann)

著書 (Bücher)

- 3a. Fälle und Entscheidungen zum Strafrecht — Besonderer Teil. 3. Aufl., 1983.
16. Roxin — Arzt — Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht, 1983.  
論文 (Aufsätze)
67. Sanctions and the correctional system. The Criminal Justice System of the Federal Republic of Germany, 1981, p. 97 ff.
68. Die Bekämpfung des Mißbrauchs von internationaler Wirtschaftsmacht aus der Sicht und mit den Mitteln des Strafrechts. Das Europa der zweiten Generation. Gedächtnisschr. f. Christoph Sasse, Bd. 2, 1981, S. 629 ff.
69. Examensklausur Strafrecht. Fall zu Fragen des Allgemeinen Teils und des Umweltstrafrechts. JA 1982, S. 371 ff.
70. Handhabung und Kritik des neuen Wirtschaftsstrafrechts — Versuch einer Zwischenbilanz. Festschr. f. H. Dünnebieber, 1982, S. 519 ff.

71. Allocution d'ouverture par le Président du Colloque. RIDP vol. 54, 1983, p. 21 ff.
72. Commentaire sur le sujet du Colloque, RIDP vol. 54, 1983, p. 33 ff.
73. Computerkriminalität und Mißbrauch von Bankomaten. Wertpapier-Mitteilungen 1983, S. 1326 ff.
74. Insolvenzstraftaten aus der Sicht der Kreditwirtschaft. ZSchr. f. Wirtschaftsrecht 1983, S. 513 ff.
75. Der Vergleichsbetrug. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 405 ff.
76. Auslegungs- und Methodenprobleme im neuen Wirtschaftsstrafrecht. R. Belke — J. Oehmichen (Hrsg.), Wirtschaftskriminalität, 1983, S. 26 ff.
77. Das Strafprozeßrecht. Roxin — Arzt — Tiedemann, op. cit., S. 129 ff.

171. トゥリフテラー (Otto Triffterer)

著書 (Bücher)

7. Optisches Strafrecht. Allgemeiner Teil. Ein systematischer Grundriß mit Schaubildern. 1. Halbband: Allgemeine Grundlagen, System und Element des Verbrechensaufbaus, 1981.
8. Die österreichische Beteiligungslehre: eine Regelung zwischen Einheitstäter und Teilnahmesystemen? 1983.  
論文 (Aufsätze)
29. The pre-trial phase (the police and prosecution). The Criminal Justice System of the Federal Republic of Germany, 1981, p. 29 ff.
30. Zweites strafrechtsvergleichendes Seminar Polen-Österreich. ÖJZ 1982, S. 151 ff.
31. Sind § 42 StGB und seine Ausformung im Prozeßrecht mit Art. 6 EMRK vereinbar? ÖJZ 1982, S. 617 ff.
32. Die mutlosen Trinker. Kienapfel (hrsg.), Fälle und Lösungen zum Strafrecht. 1983, S. 143 ff.
33. Die Theorie der objektiven Zurechnung in der österreichischen Rechtsprechung. Festschr. f. U. Klug. Bd. II, 1983, S. 419 ff.

172. ウルゼンハイマー (Klaus Ulsenheimer)

論文 (Aufsätze)

15. Einschränkungen des Beweisrechts in Gegenwart und Zukunft. Anwaltsblatt 1983, S. 373 ff.
16. Zur Problematik der überlangen Verfahrensdauer und richterlichen Aufklärungspflicht im Strafprozeß sowie zur Frage der Steuerhinterziehung durch Steuerumgehung. wistra 1983, S. 12 ff.

172. フィルモウ (Bernhard Villmow)

共著 (Buch)

2. Villmow — Stephan, Jugendkriminalität in einer Gemeinde. Eine Analyse erfragter Delinquenz und Viktimisierung sowie amtlicher Registrierung, 1983.  
論文 (Aufsätze)
8. B. Villmow — Sabine Müller — Bernd Krieger — Burghard Plamper, Zur Praxis des Opferentschädigungsgesetzes. KrimJ 1982, S. 303 ff.
9. Viktimisierung und Delinquenz im Jugendalter. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/1, 1983, S. 508 ff.
10. Kriminalität der jungen Ausländer: Ausmaß und Struktur des abweichenden Verhaltens und gesellschaftliche Reaktion. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 323 ff.

173. フォークラー (Theo Vogler)

論文 (Aufsätze)

30. Die Ahndung im Ausland begangener Verkehrsdelikte nach dem Entwurf eines Gesetzes über die Internationale Rechtshilfe in Strafsachen (IRG). DAR 1982, S. 73 ff.
31. Zur Frage des maßgeblichen Rechts beim Verbot der Auslieferung wegen politischer Taten (§ 3 DAG). GA 1982, S. 47 ff.
32. Die Bedeutung der Rechtsweggarantie des Grundgesetzes für den Rechtsschutz in Rechtshilfefverfahren. NJW 1982, S. 468 ff.
33. Die Rechtsstellung des ersuchten Staates bei Ablehnung der Auslieferung. Deutsche strafrechtliche Landesreferate zum XI. Internationalen Kongreß für Rechtsvergleichung Caracas 1982, 1982, S. 89 ff.
34. Das neue Gesetz über die internationale Rechtshilfe in Strafsachen. NJW 1983, S. 2114 ff.
35. Das neue österreichische und deutsche Auslieferungsrecht im Vergleich. ZfRechtsvergleichung 1983, S. 190 ff.
36. §§ 22 — 24. LK-StGB. 10. Aufl. 33. Lieferung, 1983.

174. フォルク (Klaus Volk)

論文 (Aufsätze)

13. Die Pflichten des Unfallbeteiligten (§ 142 StGB). DAR 1982, S. 81 ff.
14. Strafrecht und Wirtschaftskriminalität — Kriminalpolitische Probleme und dog-

- matische Schwierigkeiten —. JZ 1982, S. 85 ff.
15. Gesetzliche Regelung der Unfallflucht. Die Pflichten der Unfallbeteiligten. 20. Deutscher Verkehrsgerichtstag 1982, S. 97 ff.
  16. Der Laie als Strafrichter. Festschr. f. H. Dünnebieber, 1982, S. 373 ff.
  17. Die Parteispenden-Problematik — Materielles Steuerstrafrecht nach geltendem Recht. wistra 1983, S. 219 ff.
  18. Der Subventionsbetrug. R. Belke — J. Oehmichen (Hrsg.), Wirtschaftskriminalität, 1983, S. 76 ff.

176. ヨアヒム・ワーグナー (Joachim Wagner)

論文 (Aufsätze)

11. Legalitätsprinzip und politischer Protest. Krim 1982, S. 306 ff.
12. Auf Sachen geschossen — Personen getroffen. Statistik über den polizeilichen Schußwaffengebrauch. Krim 1983, S. 470 ff.

177a. ワルター (Michael Walter)

1983年に、ケルン大学教授となった。ヒルデ・カウフマンの講座を継承した。

Professor an der Universität zu Köln, WS 1983.

論文 (Aufsätze)

17. Das Risiko weiterer Straffälligkeit als Voraussetzung ambulanter Betreuungsangebote in der jugendgerichtlichen Praxis. MSchrKrim 1982, S. 152 ff.
18. Jugendwohlfahrtsausschuß und Stadtstaatenklausel — oder: Wie gesetzlich vorgesehene Mitwirkungsrechte unterlaufen werden —. ZBlJR JW1 1982, S. 282 ff.
19. Praxisorientierte kriminologische Forschung — Möglichkeiten und Gefahren —. H. Kury (hrsg.), Prävention abweichenden Verhaltens — Maßnahmen der Vorbeugung und Nachbetreuung, 1982, S. 29 ff.
20. Strafaussetzung zur Bewährung, Bewährungshilfe und Führungsaufsicht. Sieverts — H. J. Schneider, Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Lief. 1, 1983, S. 151 ff.
21. „Innere“ Reform jugendkriminalrechtlicher Praxis — Einige kritische Überlegungen —. Kerner — Kury — Sessar, Deutsche Forschungen zur Kriminalitätsentstehung und Kriminalitätskontrolle. Interdisziplinäre Beiträge zur Kriminologischen Forschung. Bd. 6/2, 1983, S. 1023 ff.

180. ウルリッヒ・ウェーバー (Ulrich Weber)

共著 (Bücher)

3. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. LH 5: Delikte gegen den Staat, gegen Amtsträger und durch Amtsträger, 1982.
4. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. LH 2: Delikte gegen die Person (Randbereich), Schwerpunkt: Gefährdungsdelikte, 1983.

論文 (Aufsätze)

29. Fälschungsdelikte in Beziehung auf den Führerschein. Zugleich Besprechung von OLG Hamm NJW 1976, 222 und OLG Köln NJW 1981, 64. Jura 1982, S. 66 ff.
30. Übungsklausur Strafrecht. Der präparierte Sportwagen. Jura 1983, S. 544 ff.
31. République Fédérale d'Allemagne. Rapport national. — Partie dogmatique II —. RIDP vol. 54. 1983, p. 581 ff.
32. Strafrechtsreform. Sieverts — H. J. Schneider (hrsg.), Handwörterbuch der Kriminologie. 2. Aufl., Bd. 5, Lief. 1, 1983, S. 40 ff.

181. ウェルプ (Jürgen Welp)

論文 (Aufsatz)

10. Strafrecht: Der vermeintliche Diebstahl. JuS 1983, S. 865 ff.

183. ウェッセルス (Johannes Wessels)

著書 (Bücher)

- 1a. Strafrecht. Allgemeiner Teil. 13. Aufl., 1983.
- 2a. Strafrecht. Besonderer Teil. I. 7. Aufl., 1983; II. 6. Aufl., 1983.

185b. ヴォルター (Jürgen Wolter)

論文 (Aufsätze)

9. Notwendige Teilnahme und straflose Beteiligung. JuS 1982, S. 343 ff.
10. Vollrausch mit Januskopf. NStZ 1982, S. 54 ff.
11. Grundfälle zu „in dubio pro reo“ und Wahlfeststellung. JuS 1983, S. 363 ff., 602 ff., 769 ff.; 1984, S. 37 ff.
12. Vorsätzliche Vollendung ohne Vollendungsvorsatz und Vollendungsschuld? — Zugleich ein Beitrag zum „Strafgrund der Vollendung“. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferez, 1983, S. 545 ff.

186. ヴュルテンベルガー (Thomas Würtenberger)

祝賀文 (Glückwunsch)

- Heinz Müller-Dietz, Thomas Würtenberger zum 75. Geburtstag. NJW 1982 S. 2229 ff.

論文 (Aufsätze)

203. Das Euthanasie-Problem in rechtsphilosophischer und rechtspolitischer Sicht. Dietmar Bader (hrsg.), Fragestellungen einer Akademie. Ausgewählte Beiträge zum 25jährigen Bestehen der Katholischen Akademie d. Erzsdiözese Freiburg. 1981, S. 236 ff.
204. Karikatur und Satire aus strafrechtlicher Sicht. NJW 1982, S. 610 ff.
205. Rechtliche Grenzen politischer Kunst in historischer Betrachtung. Mühleisen (Hrsg.), Grenzen politischer Kunst, 1982, S. 17 ff.
206. Satire und Karikatur in der Rechtsprechung. NJW 1983, S. 1144 ff.
207. Erziehung, Kommunikation, Begegnung im Strafvollzug. Kriminologie — Psychiatrie — Strafrecht. Festschr. f. H. Leferenz, 1983, S. 193 ff.

187. ツィップ (Heinz Zipf)

著書 (Bücher)

- 7a. Maurach — Zipf, Strafrecht — Allgemeiner Teil. Teilband 1: Grundlehren des Strafrechts und Aufbau der Straftat. Ein Lehrbuch. 6. Aufl., 1983.
10. Empfiehlt es sich, die Vorschriften über die Öffentlichkeit des Strafverfahrens neu zu gestalten, insbesondere zur Verbesserung der Rechtsstellung des Beschuldigten weitere nicht-öffentliche Verfahrensgänge zu entwickeln? Verh. d. 54. Dt. Juristentages. Bd. 1, 1982, S. C 1 ff.

論文 (Aufsätze)

27. Verminderte Zurechnungs- oder Schuldfähigkeit — Vergleich der österreichischen und der deutschen Regelung. Göppinger — Bresser (hrsg.), Sozialtherapie. Grenzfragen bei der Beurteilung psychischer Auffälligkeiten im Strafrecht. KrimGegFr. Heft 15, 1982, S. 157 ff.
28. Das verhängnisvolle Darlehen. Kienapfel (hrsg.), Fälle und Lösungen zum Strafrecht, 1983, S. 28 ff.